

第一國銀行

東京

清國政府係以債附金事務報告書



大正十一年四月  
侯爵郵寄贈

清國政府、貸附金事務考課状

明治十年一月廿五日、命令書にて清國政府、貸附金ノ

事務取扱方ヲ領承シ、彼ノ地、出張シテ之ヲ談判シ之ヲ  
結約シタリ。其事務ノ要件ヲ左ニ條陳シテ、謹テ復命

仕候

○一行敷程及歸朝之事

貸附金、第一國立銀行、名義ヲ以テスルハ、其談判ノ當

務、同行頭、取高澤、第一三井物産會社長、益田考、ノ

兩人、專任セラレタルニ、其談判ノ際、之ヲ實況ヲ監視シ、且

臨時兩人ヨリ、稟議ヲ聽斷ス。為メ大藏少書記官、岩崎

十三郎、特撰派出、命令セラレ、二人派遣中ノ要件モ、惣東

セシ、自明治十年一月廿六日、以テ東京ヲ敷程シ、同日午後

四時、横濱港ヲ拔錨セリ



此貸附金、自前初より従事、勉力せしむる陸軍大佐福原和勝及内務省の佐藤英人、ヒトマシ氏、亦此談判ノ調成ヲ周旋ノ為メ、前ノ三人ト共ニ、敷程同行セリ

一行五人ハ一月廿八日拂曉、神戶港に着し直ニ上陸シテ大阪ニ赴キ同所ノ事務ヲ辦理シ同夜神戶ニ歸港シテ本船ニ乗進ミ午前一時同地ヲ發シ廿九日夜下ノ関ニテ暫時碇泊シ二十日午後八時長崎港に着し直ニ上陸シテ同港ニ一泊シ要務ヲ辦理シ三十一日夜本船ニ歸リ午前一時、拔錨シテ二月三日午前七時清國上海港ニ安着セリ

上海上陸ノ後直ニ日本領事館ニ到リ品川總領事ニ面接シテ大藏卿ヨリ傳命ヲ達シ且此貸附金ニ付テ来ルニテ事情ヲ詳細ニ演述シるレテ向後此談判ノ便宜ヲ協

議ニ畢リテ岩崎ノ滙澤、益田ノ三人ハ此談判中上海ニ見廣業商會ノ支店ニ投宿ス、之定メ福原和勝ハ曾テ此地ニ僑居ス所ノ家ニ歸リ、ヒトマシハ其友人某氏ニ投宿セリ

一行ノ上海ニ抵ルハ風ク已ム人ノ聞知ス可ト為ルヲ以テ曾テ此貸附金ニ関スレテ清國政府ヨリ其代理ヲ任セラレタル英商リイテラウエス社中ノ支配人マシワシ氏及清國人何福蔭ハ直ニ領事館ニ来リテ一行ノ到着ヲ訪ヒ且其借銀ノ要件ヲ面談セシメテ乞フニ此品川總領事ハ既ニ三人ト協議セシ趣旨ヨリテ明日ヨリ其磋商ニ及フヘシト答ヘリ是ヲ以テマシワシ何福蔭ノ両氏ハ二月四日ヨリ廣業商會ニ来リテ此磋商ヲ始メ亦相注進シるレテヒトマシ氏ハ常々其間ニ入りテ拮据其協議ヲ賛成シ物品交付ニ付テ各件モ

漸次詰合を結せしより貸借雙方に於て信守を以て約款ハ  
 上海より英人ノ状師レイシー氏ニ委ね英譯ヲ以テ之ヲ草し  
 之ヲ以て約定ノ根拠トシ加んて日本語清國語ノ両面ヲ副  
 之ト定メ二月廿二日ニ至リテ諸般ノ事務ヲ整理東シ其  
 夜一時ヲ以テ償借約定ノ主任及関係ノ各員共日本領  
 事館ニ會同シ約定書ニ記名捺印セリ  
 貸附金ノ借約既済ニ付岩崎 澁澤 益田ノ三人ハ本  
 月十四日ヲ以テ敷程歸 朝ノ下ヲ決シ十三日ニ旅装ヲ  
 理シ諸方ノ音信告別 亦テモ辦理シテ十四日午前十一時  
 ニ三菱會社ノ汽船名護屋丸ニ搭シ午後一時上海ヲ發  
 シヨリ陸軍 大佐 福原 和勝ハ本官取寄要ノ事務  
 アリテ歸 朝スヘキニ付三人ト同行シヒトマン氏ハ上海ニ滞  
 在セリ

二月十二日午前十一時長崎に着シ一同上陸シテ旗立ニ投シ  
 且本事務ニ付テ同僚ニテ要用ナル各件ヲ辦理ス為ニ次便  
 ノ汽船東ニ着マテ此地ニ滞在ノ下ヲ決シ三人ハ即日ヨリ其  
 務ニ就テ諸件ヲ調査シ廿一日廣島丸ニ航シ廿三日午後六  
 時神戸ニ着シ此ノ上陸シテ三人ハ即夜汽車ニ乗リテ  
 大阪ニ抵ル福石ハ本務ニ就クテ神戸ニテ分袂セリ  
 大阪ノ事務ハ廿四日廿五日ノ兩日ヲ以テ辦理セシメ廿五日  
 夜七時半大阪ヲ發シテ神戸ニ到リ十一時ニ本船ニ乗但  
 午前一時ニ解纜シ廿七日午前十時横濱ニ着帆シ午後  
 二時半ノ汽車ニ乗リテ東京ニ歸 着直ニ大隈大藏  
 卿閣下ニ伺候ニ時ニ於テ大藏大輔殿御國債局長殿  
 ニ之來會セラレ貸附金約定ノ顛末及旅中ノ景状ヲ面會  
 ニ於テ陳述ス

右設程ヲ歸 朝、日迄ノ際要、シテ日常ノ庶務ヲ辦  
理シ及他人ト直接接洽セシ詳細ハ次ノ接洽ノ順序及為  
冊旅行日記ヲ以テ上申仕候

○貸付金結約順序之事

貸付金ノ案件ハ昨年七月間、總行ヨリアル果我大蔵卿  
閣下ニ文書電信ヲ以テ屢之ヲ品川總領事及日比谷ニ成  
二禮答メ下種既彼ヨリ請求ノ事項ハ於テ頗ル複雑ノ前為  
アルヲ以テ大蔵卿閣下ハ既之ヲ厭ヒ一月廿三日ノ電信ニテ  
品川ヲ經テ新嘉坡接洽判ヲ拒絕ニ向シテ三人ノ此行アル殊  
ニ銀行ノ其支店ヲ上海ニ設立ス為メナレハ彼ヨリ為此接洽  
ヲ望ムモ直ニ前議ニ接續スルハ我ニ於テ之ヲ好マサル旨派  
ラク其議ヲ更始スニ、トシ著後品川ノ其理由ヲ演述シ  
同所ハ其趣、ヨリ以テ許厚如キ通知スハキ、丁ニ議決ス

然ルレテ三人ハ其議案ニ投スル後更ニ相議シテ曰我僑  
ノ此地ニ暮居スル已ニ外人ノ探知ス可トナヤカセリ故ニ卒然  
此地ニ於テ此議ヲ起サハ或ハ外人ノ妨害ヲ受クルモ亦識ルハカ  
ラス如キ飄然一寧波居ルハ其他ノ地ニ赴キ先リ外人ノ探  
偵ヲ避テ許厚如キ切ニ此借銀ヲ要望セハ且シク來議セシ  
メニ品川ノ事、見ルハ及レテ之ヲ因氏ニ詢ル品川曰許厚  
如ノ此借銀ヲ望ムハ切ナル決シテ疑點ナシ既ニ過頃拒絶  
ノ電報ヲ達スルヤ驚愕狼狽其面ニ顯ル故ニ先キ寧  
波ニ赴カハ彼亦必ス之ニ從ハシムル然ラハ此事即チ果  
露シテ人ノ之ヲ探偵スルモ亦隨テ多ク如キ靜ニ此地ニ於  
テ此議ヲ為レテ諒ニ之ヲ結了セシト依テ此議ヲ歌

品川總領事ノ通知ヨリ華商ニシテ氏清國人何福蔭

ハコトトマシ氏同仲ニテ旅寓ニ来訪ス(二月四日)且ツ曰此事務ノ專任ニ許有ルハ現ニ豫州ニ在リ不日歸漢スヘシ然レモ借銀ノ要件ニ於テハマシ氏何福蔭ニ協議シテ之ヲ決スルヲ得ンコト告過仲此議ヲ約定スヘシト是ニ於テ三人ハ本日より始メテ此貸附金諾定シ為諸ヲ開ク

三人ハ先ツ此貸附金ノ付テ取要スル左ノ數項ヲ函式同ク

一 借銀ノ總額ハ海關テ一〇〇百五十萬兩トシテ此約定ヲ行フヤ

一 總額中一日本米ニ換萬名ヲ加ルテ皆首スヤ

一 右米ノ品柄ハ日本平均良米ヲ以テスヘキコト付テテ承諾スヤ

一 米ノ外ニ銅錢 布 炭 小麦 其他精製物 鹽 及 海産物 桑 糸 等ノ各品ヲモ受メルヤ

一 日本官位 總領事少クモニ換萬兩ノ額ヲ此借銀ノ加ヘテ

受取ルヤ

一 物産其他ヲ以テ支附スル額ヲ除キテ總額ニ充テル可ハ洋銀又ハ日本貿易銀ヲシテ我ノ都令ヲ以テ貸與スヘキコト付テテ承諾スヤ

一 海關テ一〇〇萬兩ノ以テ日本旧銅貨ハ凡ソ五萬兩ヲ以テスル

一 返済期限利息ノ割ハ海關テ一〇上海テ一〇及洋銀貸付銀ホリ比較ハ曾テ論及セシ可ク以テスヘシト務氏此際ハ海規銀ノ相換ニヨリテ我ノ都令ハ銀愧ニテ受取ルコト付テテ故ニ其量自品位ホク確定シテ此約定ニ明記スルヲ要ス

一 貸入金ノ抵当ニ海關証票ハ曾テ東洋銀行ニ出シタル品ト著シキル且其枚ノ金額ハ多ク凡五千兩迄ノ額ニシテ

通票掛出の期限は五ヶ月に之を其海關の稅銀を收入するに  
明記せんや

右ノ數項ヲ磋商シ且此談判の成セハ其約定書ハ老練ノ  
外國狀師ヲ我ニ雇フテ之ヲ草シセシメ其原書ハ英文ヲ根據トシ  
兼ヨリ本文書通國文ヲ副フヘキトシ且此等物品ヲ交付スル付  
テノ手續等ハ磋商及シ米及銅錢小豆ノ見本ヲ以テ明セシム  
マレトシ何種ノ兩氏ハ物品ノ見本ヲ一覽シテ右開ノ數項  
ニ對シテ左ノ條件ヲ以テス

- 一 借銀ノ總額ハ海關ターム貳百五拾萬兩ヲ以テ此約ヲ結フ  
ヘシ
- 一 米ハ三積萬石ヲ如クテテ必諾スト種凡三陸米又ハ北越  
ノ米ノ如キ下等ノ品ノ陸中日本良米ヲ以テスルヲ要ス
- 一 米ハ必ス外國ニ輸出スヘシ貸主ノ許可ヲ得ルニテテ其ヨリハ

日本ニテ先ノ如クセザルヘシ

一 銅ハ丁銅鑄形銅ヲ以テ先ノ其額及價格ヲ議定  
ヘシ是ハ銅ノ如キハ通國時價ヨリテ其受取方ヲ協  
議スヘシ是レテ錢ハ即今賣却ノ見込ニ至リキヨリ之  
ヲ除クヘシ

一 石炭ハ東ノ見込ヲ定メテ其額ト價格トヲ議定  
スヘシ小豆ハ五ツノ高ナラシテ之ヲ受取ルニ難カルヘシ精製  
藍ハ東ノ清國地方ニ其方法ヲ知ラセシメ之ヲ賣却スル  
ニ至リキヨリ之ハ陸中海産ハ通國時價ヨリテ受取方  
ヲ協議スヘシ茶ハ其製法ヨリテ充分賣却ノ見込ア  
ルヘシ

一 定位銀貨ハ三拾萬兩ノ額ニテは多クニ過キテ受  
取ルテ難シク其額ヲ減サスヘシ

一 海關ヲハハ素ヨリ物主ハ此レテ日本旧銅貨モ可成  
 丈ケ其額ノ増加スルヲ好トス  
 一 總額中物品ヲ以テテ額ヲ除ク外洋銀又ハ貿易銀  
 ヲ以テ貸主ノ都合ヨリ支附スル一之ヲ必諾スヘシ  
 一 通濟ノ銀價ハ以テテ一ツカガ爲ニ其量目品位ヲ約  
 書シ明記スルニ清國通濟ノ銀ヲ以テ其量目品  
 位等ヲ詳志シ且從前ノ慣法ニ因リテ其時價ヲ以  
 テ通用スル所ト銀價ノ實物トノ較量ヲ明クセテ要  
 卜種氏當港ノ各商估ハ未タ之ヲ詳志スルノナキニ付  
 宜シク外國銀行ニ就テ之ヲ審議シテ海之論及スヘシ  
 一 振當先海關証券ハ當テ東洋銀行ニ出シタルト同  
 様ニ且其額ニ五千兩以下ニスヘシ  
 右ノ談判ニ於テ實情進方ノ思量スル大要ハ甚ク隔絶

セリト種氏未敵ノ受渡ニ手續及定任銀價ノ負額ヲ  
 定メ銅名炭ノ賣海産品ノ價格ト負額トヲ協定スル  
 於テハ多少其可見ヲ異ニスル所自之ヲ協議スル至ルハ亦數  
 回ノ論辯ヲ要セザ可ラス然而レテ其必要ノ件ハ通濟  
 時ニ用ユル銀價ノ量目品位ヲ協定セサレハ維令他ノ百事  
 協議ニ至ルモ其難行ヲ爲ス可ラザルハ自之ハモツテ何福之陰ノ  
 兩氏ノ其趣ヲ演述シ明日ヨリ各自之ヲ調査スル所トシ  
 テ當日ノ談判ヲ歇ム  
 清國通用銀價ノ量目品位ヲ考定スル海關証券ノ真  
 物ヲ一見セン爲メ三人ハ在上海ノ東洋銀行ニ抵リ二月五日  
 支配人ハリソン及橫濱同出店ノ支配人ロートンニ面會シ只  
 ントワンハ其ノ所用ニテ一月ヨリ此地ニ滞在セリ海關証券ノ真  
 物ヲ一見シテ(其字ハ別ニ上進ス)其文收ノ手續ヲ問フコヘシ



小ワレ曰此証票ノ信憑心元之是ハ既ニ其表面ノ期ニ抵レハ  
 海關稅之充ツルノ明文ヲ加之該海關ノ理事官タル歐洲人之  
 調印スルハ北京ニ在ルハト氏ノ命令ニ出ツルモノナレハ今清國政  
 府ノ貸金ヲ爲シ此証票ヲ抵當トスルニ於テ當行ニ收入セシ者  
 ノ如クモ敢テ關心ナカレハ且夫レ貸附金ニ生テ毎年ノ利子  
 ノ如クモ同シク此証票ヲ文收スルヲ以テ可トス然而ハ此証票  
 ハ其所持人ノ名ヲ記スル地ヲ空白ニシテ隨意ニ之ヲ記入セシ  
 ルノ製法ナレハ即チ共之ヲ賣買授受スルニ亦隨意ニモノナ  
 リト依テ第一國立銀行ハ此海關証票ヲ以テ更ニ公債ヲ募ル  
 ラレト欲セハ此証票ヲ抵當ニ公債證書ヲ發行スルヲ得ルハ  
 ヤト同ク同氏答フニ此証票ニ著名ナキヲ以テ之ヲ抵當トシテ  
 公債ヲ募ルハ敢テ約定書中明記セスト雖モ聊好ケナキ  
 ヲ以テス

茲ニ又銀塊ノ量目品位ヲ審問スル雜凡別ニ調査シ之計  
 算ナキヲ以テ乃チ同三ニ告別シテ歸寓セリ  
 爾後ガレツレハ口トマレテ伴ヒ旅寓ニ來訪ス然レモ銀塊ノ  
 調査未ク詳志ナラザルヲ以テ其該他ノ物件交付ノ事ニ及  
 ズテ得ス只昨日ノ談判中我ヨリ要求セシ定位銀塊ノ額  
 ニ拾萬兩ハ之ヲ受取ルモノトシテ其該拾萬兩ハ再ニ我ニ返  
 戻シ其間幾分ノ差金ヲ出スレト云フ是ニ於テ三人ハ密切  
 ニ相議シテ曰今此定位銀塊ノ多量ヲ強ルモ之ヲ一國立海關  
 地方ニ派面テ之ヲ融ハサレハ我ニ於テハ借入ノ其返戻金  
 ヲ得ルノ小益ヲ見ルハ如クモ額ヲ減シテ之ニ代ル他ノ利ヲ可  
 マラシムハト依テ此貸附金ニ自第一國立銀行ノ内地ニ公債ヲ  
 募集ルヲ要スルヲ以テ其募集費トシテ幾許ヲ出スマラマレ  
 ンシニ試問シ且告テ曰吾等今此貸附金ヲ議ス其要

國より定価銀貨ヲ交附シテ清國ノ金融ヲ整理ケ物品ヲ輸  
 送シテ兩國ノ商業ノ盛ニテ計ニ在リ然ラセバ何リ斯  
 低利ノ金ヲ貸附スルヲ為セヤト云ヒテ同氏更ニ審案シ  
 テ回答スヘキトテ約を畢テ歸ル

銀價ノ量目品位ノ通清ヲ詳悉セシカ爲メ益田君ハ再ニ  
 東洋銀行ニ據リ支配人ハリシニ面會シ且其金庫出納  
 ヲ管掌シテ清國人ニ就テ之ヲ審視シ大ニ得ル所ナリ以  
 テ歸高後其計算ヲ爲シ明日マシツシニ示シテ之ヲ協  
 議スヘキトトス(計算書ハ別紙ヲ副テ上申ス)

マシツシヒツトマシ東後(二月六日)示スニ同氏ノ調査セシ銀價  
 計算ヲ以テス我ノ計算セシモノト瑣少ノ差異アリ因  
 テ此貸附金ニ返還ノ際ニ貸主モシ上海規銀ノ相場  
 以テ受取ルヲ好メ其銀價ノ實物ヲ以テセシト欲スハ其

調査スルニ量目ト品位ヲ明記シ其定限ニヨリテ之ヲ計算  
 シテ受取ルヘキトテ約定書中ニ掲載スヘキト議定ス  
 右ノ要件ヲ協議シテ後マシツシハ定価銀貨ノ額ヲ減  
 却スル爲メ公債集募力費ヲ出スノ途ニ及ヒ我ノ見ル所ノ額  
 ヲ回フ多クシテ銀貨ノ交附ハ其半額ヲ減シテ公債集募  
 費ハ海關テシテ萬五千兩ヲ拂フヘキトテ以テ是ニ於テ  
 法論數回我モ御之ヲ退歩シ定価銀價ハ極高兩ヲ  
 交附シ公債集募力費ハ萬兩ヲ拂フヘキトテ折言  
 スマシツシ猶前意ヲ執ツテ之ニ從ハスト雖モ復々何氏ニ詢リ  
 テ後之ヲ決定スヘキトテ約ス

銀價ノ量目品位ハ既ニ其調査ニヨリテ稍決定シ而シテ定  
 価銀貨減却ノトモ之ニ代ルニ公債集募券ヲ以テスルニ至  
 リシニ自諸物品ヲ交附スヘキ金額及其價格ヲ定ムルノ

案件ハ左ノ数項ヲ以テマシメテ試問ス

- 一 石炭ハ三池毎月三千噸唐津、千噸多久千噸今福千噸ニシテ合計六千噸之ヲ六月文附シテ三萬六千噸トシ其價格ハ三池洋銀四弗如於五セシト多久四弗、今五セシト唐津四弗、今福四弗トシ各長崎、港、於テ引渡スヘシ若シ滿島、本船ヲ送ルルハ其運送費トシテ幾分ヲ價格中ヨリ減却スヘシ
- 一 銅ハ丁鑄鑄形銅ニテ其金額ヲ百萬斤トシ丁銅ハ如於四弗、鑄形銅ハ如於三弗トシ各日本用港、協、渡、ニタレヘシ
- 一 小麦ハ金額ヲ五萬石トシ各石ヲ百拾斤トシ其價格ハ三弗ニテセシトタレヘシ
- 一 海産及茶ノ類ハ他日其品ニ就テ時價ヲ協議セハ

之ヲ加入スヘシ

- 一 利息ノ起算ハ物品ヲ文附セシ日ヲ以テスヘシ
- 一 海關証券ト交換スル海關レシハ貿易銀洋銀ノ類ヲ除ク、外物品ニテ文附スルハ素ヨリ証券數正東ノ前トシ其文附ノ額ニ照ラレテ其時ニ西貨又ハ確實ナリ一時ノ抵当品ヲ徵スヘシ
- 一 海關証券文收ノ後萬一紛失スルハ清國政府ハ更ニ其代リヲ作りテ文附スヘキヲモ約定書中ニ掲載スヘシ
- 一 該証券アルハテ滿當トシタレハ金額ハ向來モシ清國ノ戦時ニ際シ且其戦中ハ証券所持人ノ自國トノ間ニ起ルルレ下レハ清國政府ハ之ニ関セス約款ニ照ラレテ貸金ヲ器者ニヘキヲ約定書中ニ掲載スヘシ
- 一 貸附金(西貨物品共)ノ金額ヲ文附スルハ約定書調印

ノ日ヨリ六月間以テスヘシ其返濟ハ明年十二月ヨリ始メ  
 十年賦金ヘシ向テ利益ハ本額ニ對シ百兩ノ百八兩五  
 錢ト定メ毎年五月十日之ヲ拂フモトスヘシ

一 約定書調印ノ後清國政府ハ抵當ノ海關証票ヲ  
 出ス為メ該海關見地方ノ各處ニ示令ヲ為スヘシ

一 物品ヲ支附ス日本諸港ハ東京横濱四日市大阪兵庫  
 下關長崎ノ七港ニ限ルヘシ

一 物品輸送ノ船舶ハ可成オ我ニ其會社ノ汽船ヲ以テ  
 スヘシ

一 物品輸入出ニ付テ日本清國凡其海關ニ納金關稅ハ  
 雙方共ニ之ヲ免除スルニ辦理スヘシ

一 約定書調印ノ後之ヲ履行セザレハ其違約ノ者ヨリ  
 海關ニ一ト檢萬兩ノ償金ヲ出スルヲ約定書中ニ掲

載スヘシ此連約萬一清國政府ヨリテ其前ニ交附  
 セシ物品ニハ其代價ハ既ニ正貨又ハ一時ノ抵當ヲ以テ受取  
 ルハキニ付之ヲ以テ賣却セシモトシテ此連約ノ処分ニ及スヘシ

右ノ數項ハマシラシ氏ヨリ之ニ同意ノ趣ヲ述ベ只石炭ノ價格  
 ハ尙高價ナリ揚所ヲ定メ暫ク之ヲ猶豫シ且其價格  
 モ一層減却セシテ之ヲ要シ鑄形銅ノ價格モ兩三日ヲ猶延  
 シ而シテ亦賣ル價數ハ五萬石ニテ之ヲ受取リ得ザレバ自便ニ  
 其額ト價トヲ減セシテ之ヲ乞フ

マシラシ氏ハ右ノ答辭ヲ爲シテ又左ノ二項ノ一ヲ未ダ  
 一 リイダテウエス商人會ノ此貸附金ニ付テ清國政府代理  
 人ト爲リテ日本ヨリ支附スル物品ノ賣却印ヲ辦理スル自家  
 取必要ノ件ニハ既ニ此借款ニ於テ許有ルカ領受シ  
 ル所ノ金幫辦ノ委任狀ノ本書ハ同商人會ニ保持セリ

るに於て此約ヲ結フ、於て同商會ハ更ニ此委任状ヲ以テ英國領事ヲ經由シテ清國官署ニ照會シ此委任状ノ確信スヘキ証據ヲ徴スヘシ

一 此約定ヲシテ宛然ニ結了セシムル爲メニ約定書中記載スヘキ違約ノ償金拾萬兩ノ外雙方トシテ各五萬兩ヲ現金ヲ以テ外國銀行一出生言テヘシ

是ニ於テ三人ハ其言ニ從テ彼レモシ直之ヲ出サハ第一國互銀行モ亦現金ヲ出スヘシトシテ之ヲ結判畢リテマコトヒツトマシハ歸一宿セリ

マコトヒツトハ談判界其要ヲ盡セル付三人ハ約定書(日本語)ヲ草案ニ由テ彼レニテ草案案セル英國語ノ約定書ニ比較シテ其差違ハん如ク抹書シ之ヲ携帶シヒツトマシテ併フテ狀師ノレイ子一氏ヲ訪ヒ(二月七日)草案案ヲ示シテ

終日其事ヲ豫ス

右ノ草案案中ニ於テレイ子一氏ノ摘摺指評セル要件ハ左ノ如クシテ且是ヨリ先キレイ子一氏ハ澳國領事館ノ書記ハリス氏ニ就テ海關証券ノ性質ヲ究明セリ

一 原案中ニ許る如クハ文字ハ改メテ清國政府トスヘシ  
一 日本米ハ之ヲ輸出スル要スルヨリ再ニ之ヲ輸入スヘカラスルノ字ヲ加フヘシ

一 海關証券ハ固ヨリ賣買讓受ヲ得ヘキ性質ヲ有スルニ付其相續人モ之ヲ有シテ同業ノ權利ヲん云クノ字ヲ記入スルハ無用ノ辭々ニヘシ

一 爰ニ文收ルニ海關証券ハ向キニ該海關証券ヲ以テ檢査者トシテ東洋銀行並チヤンヂンマテフシ商會ノ分ヲ除ケル外該海關收稅ヲ先取スルノ權ヲ有スルノ字ヲ加

フヘシ

一 原告は此貸附金の約定書に海關証券ヲ授受シタル後、完了セシモノトシテ、既に此貸附金の還清ノ際、銀塊ヲ以テ其ノ要件ヲ加ヘタルモノナレハ、到底、十年賦比皆済ニ至ラザレハ、此約定書モ亦完了セサルモノナレシ

一 第一國立銀行は、於テ他日此海關証券ヲ抵當トシテ、公債ヲ集差スルハ、其素より其便宜ニ任セテ之ヲ爲スヘキモノナレテ、只此抵當ニ於テ其關係ヲ有スル迄ナレハ、今此約定書ニ其事ヲ明記セハ、他日其事ニ及フニ際シ、更ニ其順序ヲ清國政府ニ照會セザレバ、可ラザル煩冗ヲ来スヘシ故ニ、此約定書ニハ之ヲ記載スル要件ニ但第一國立銀行カ其公債ヲ興スニ於テハ、此約定書ニ明文ナキヲ以テ、聊ニ妨ケナカレハシ

一 物品受渡シノ際、其價格スハ高価ニ付テ、若シ海關方ノ間ニ異論ヲ生ズルハ、双方ニテ一人宛テ撰ビ、第一國立銀行ハ日英人ヲ撰ビ、之ヲ決セシムモノシ、二人ニテ決セザルハ、其一人ハ更ニ他ノ一人ヲ撰テ之ヲ決セシムヘシ

一 海關方ノ違約アリテ、豫防シテ各五萬ドルノ現金ヲ外國銀行ニ預金置キ、ハ、大難事ノニシテ、他日モシ紛争ヲ生スルコトアラハ、到底裁判シ得ザル件ニ至ラレ、既ニ四年前ニ上海ニ在ルヤ、ト分レマシ、且、商會ニ於テ此同例ノ約アリ、且、終ニ其異論ヲ了局スル得ザリキ故ニ、此一項ニ於テ、更ニ思考シテ便宜ノ方法ヲ注擬スヘシ

右ノ案件ヲ議定シテ後、レ、イ、子、ハ、約定書ノ文字ヲ忠ク法律ニ照ラシテ、捺書シ、明後日ハ、各ス、草、定、ス、ヘ、キ、イ、テ、約、セ、リ、三人ハ、律師、レ、イ、子、ハ、托、ス、要件ヲ了シ、歸、途、リ、イ、テ、イ、ウ、エ、ス、商

會ヲ訪ヒマシラシテ見ルマシシハ借款中ノ旧銅貨及補助銀貨  
ハ我ノ望ミヨリテ上海ニ於テ之ヲ受取ルルキヲ約ス  
マシラシテ又公債費及行ノ必要費キ萬ラシルノ多額ナリテ論シ  
テ之ヲ減セシテテ乞フ三人ハ未タ他ノ物品支附ノ負額及其價  
格モ決定セシテ獨リ此要費減却ヲ請フハ不急ノ一先ヲ  
以テス同式大ニ固却ノ色アリ因テ明白ヲ約シテ三人ハ旅寓ニ歸  
ル  
石炭ノ價格ヲ定メ小麦ノ負額ヲ決シ錢ヲ此物品中ニ加  
シカ爲メ各其見解ヲ携クテ益田君ハマシラシテ訪フ二月  
ハ且談判數刻ニシテ未タ之ヲ議定シ得サルヨリ今夕ニ  
ソシノ我旅寓ニ來ラシテ約シテ歸ル  
尔後六時マシラシヒトマシラシテ仲ヲ旅寓ニ來ル三人延見シテ  
左ノ數項ヲ協判ス

一 マシラシ曰此貸附金ヲ返還スルハ銀塊ヲ以テスル其量巨百四  
位ノ計算邊方ノ間ニ於テ凡ク千分ハノ差異アリ故ニ之ヲ折  
半ニテ各其四ヲ増減シ此定之量ノ限度ヲ決スヘト三人  
相之ニ同ス

一 マシラシ曰石炭ノ金額ヲ五千噸ト定メ而シテ三池ヲ三弗  
五控セシト唐津多クハ三弗七控五セシト今福ハ三弗五控  
セシトノ價格ヲ以テスヘト三人ハ各々ソノ石炭ノ金額ハ三萬  
六千噸ニシテ三池ハ四弗唐津ハ四弗三控セシト多クハ四弗  
七控五セシト今福ハ三弗七控五セシト各々ハ中ヲ以テスマシラシ未  
タ之ニ同セス

一 マシラシ曰銅ハ金額ヲ百萬斤トシテ銅ハ試控四弗鑄形銅  
ハ控三弗ト定ムヘト三人之ニ同ス  
一 マシラシハ我説着ヲ被リ曲從シテ曰小麦ハ各々石ニ減却

之者名ノ斤量ヲ如百拾斤トシ其價ハ三兩部拾五セトト  
 定メト三人之同シ長崎ニ於テ交附セキトシ決候ス  
 此他ノ數項ハ既ノ前日ノ議判ニ於テ議定シ且其約定書モ  
 明日ハ草定スヘキト付三人ハマシツシ、詰ル、彼ノ許旨如ノ御テ  
 此借款ノ要件ヲ領諾スヤ否ヲ以テスマシツシ、答ル、今夕  
 若クハ明日ヲ期シテ決判セキヲ約シテ歸ル  
 英話ノ約定書草案ハ本日脱稿ノ約ナシ(二月九日)此日  
 ヒットマシ旅寓ニ來リ告テ曰右ノ約定書文案ハレイ子一氏再  
 案調査スヲ以テ更ニ一日ヲ延シ明日脱稿スヘシ故ニヒットマシ  
 ハ傍方ラ之ヲ淨書シテ携ル來ルヘシト此約束ニ從テ三人ハ旅寓  
 ニ於テ之ヲ待ツヘキトナシ、他ノ要件アリテ清國人未其諾ヲ  
 答國商會ニシテ一氏ノ宅ニ於テ接見シタルト付其歸途  
 三人ハ律師レイ子一氏ヲ訪ヒ(二月十日)ヒットマシモ東會ニテ約定

書ノ要件ヲ議シ海關証票讓渡ノ一條件書ニ記入セシ  
 下テ再求シレイ子一氏之ヲ諾セリ因テ其草案ノ未定稿ナ  
 ルヲ一覽シ更ニ明日脱稿ヲ約ス時レイ子一氏ハ曾テ難事ト  
 セシ違約豫防金ノ件ヲ案定シテ三人ニ告テ曰今違約豫防  
 トシテ復方ヨリ右ノ金額ヲ一銀行ニ托スル共ニ其預ケ金  
 ニ付テ各々負ル契シテ其ヲシテ此預ケ主ムラシメ又別ニ仲  
 裁人一名ヲ契シ置キル事萬一他日紛議ヲ起スハ其  
 仲裁人ノ決判ヨリテ此豫防金ノ処分ヲ為ス下ハ約定書ハ縱令  
 貸借兩方ハ其法律ヲ異ニス氏既ニ此預ケ金ハ他人ニ委シメ  
 ル付必ス兼約ヲ履行スルヲ得ヘシト是ニ於テ三人ハ品川總領  
 事ヲ以テ委負タラシメト擬シ且其金額ノ下テ大藏卿ノ  
 閣下ニ乞ハルトス然レモ彼レノ未タ決定セザラ以テ歸途ニ  
 ツレテ訪ヒ石炭ノ負額ト價格ヲ定メ且違約豫防ノ為メ復



方より出ス所ノ現金五萬テ一ノ一ヲ決定セト主員問スマシ  
 フレハ答ハシテ許シ及何福陰ノ後亦不断ナルヲ以テ難  
 難色アリ因テ明日ヲ期シ之ヲ決スルニキリ約シテ旅寓  
 歸ル

二月十日ヒツトマシ旅寓ニ来リマシテ言テ傳ヘテ曰違約豫  
 防ノ爲メ現金五萬テ一ノ一ヲ外國銀行ノ預金トシ許子如  
 及何福陰モ之ヲ難シタル付三月月後ニ至リ正金ト引換ハキ  
 証書ヲ兩人ヨリ寫出サハ如何ト三人ハ之ニ答ヘテ曰今現金五  
 萬兩ノ代リ許子借氏ノ証書ヲ以テ之ヲ正貨ト同シキモノ  
 ト信憑シカラス之ニ反シテ第一回五銀行ヨリ出ス証書ハ素  
 ヨリ現金ト同シキ者ナリ証書交換ノ於テハ承諾スルハ之  
 ト依テ談判數刻ニシテ三人ハヒツトマシテ告ルニ右ノ言ヲ承テ  
 ス

違約ノ償金ハ約定書ニ於テ出スヘトアリ而シテ  
 此豫防ノ爲メ五萬兩ノ現金ヲ出スノ議ハマシテノ後言  
 テ我ヨリ之ヲ要求シタルモノニ非ス然レト雖モ今此議ニ及ビテ  
 彼ノ於テ之ヲ難シタルハ我家モ不快ナリ故ニ違約ノ  
 償金ヲ約定書中ニ掲載スル原案ノ如クシテ別ニ許  
 子如ラシテ海關テ一五萬兩ヲ我ヨリ從テ正貨トシ  
 寫出スルキ証書ヲ作ラシムルニテマシテハ我ニ對シテ之ヲ  
 保証セハ可ナラシ

右ノ議項ヲ示シテ先ツヒツトマシテマシテノ商會ニ振テ  
 シメルニテ後更ニ之ヲ智主員ニテ其議ヲ決シ及ヒ他ノ事  
 項ヲ談判スル爲メ益田君ハマシテラ防フ時ニ何福陰モ  
 来會シテマシテ及ヒツトマシト談判酬ナリ且何氏ノ英譯ハ  
 熟達セサルヨリ但答ノ間詳忠セサル所多キヲ以テ喧囂

甚々厭フヘキ。至ん是ヲ以テ益田君ハ温言何氏。亦之連  
 約豫防ノ預ケ金ノ一ヲ以テ決テ交附之ヘキ各種物件ノ交  
 額ト代價トノ定量ヲ告知ス何氏ハ尚其意ヲ了セスレテ曰  
 曩キ此約款ノ草案案ハ既ニ北京ニ送致シ其文中ニ連  
 約金ノ額ハ按テ兩トアリ故ニ今之ヲ變シテ五萬兩ヲ増ス  
 得スルシテ豫防ノ為メ五萬兩ノ現金ヲ出サシムルハ其按テ兩  
 中ノ一トアリ何如セシ今清國ノ歲晚ニ際シ修令之ヲシテ武  
 庫兩減スルモ清國銀行ニ謀リテ該銀行ハ現金ヲ出ス  
 ヲ肯セス故ニ現金ニ代ルニ證書ヲ以テスルヲ望ムト然而  
 マレシハ何氏ヨリ相當ノ抵當ヲ以テセサハ我ニ對シテ保証ヲ  
 為シカタレト云

尋テ物件ノ員額ト其代價トノ定量ニ於テ何氏ハ石炭ト  
 小麦トニ於テ亦頗ル難色アリテ其額ヲ減スルカ或ハ價格

ヲ減却セシテ印シテ是ニ於テ益田君ハ勵聲ノシテ曰前件  
 連約豫防ノ為メ現金ヲ出スノ一先其初メマレシ氏卿ノ旨ト  
 謀リテ之ヲ發言シ先ニ非スヤ然ルヲ今其事ヲ難シレテ以テ  
 此條議ヲ起シ今亦物品ノ價額ニ於ルモ既ニマレシ氏ト  
 協議セシメ付我情ハ果其下ヲ了セシト思考セシメ僅ニ  
 其間若クモ強テ我ラシテ曲從セシメシト欲ス是卿君情ヲ難  
 弄セシト歎スル也此に對シ我情ハ決シテ之ニ協同不能ハスト  
 而シテマレシハ何氏ニ詰ルニ前後ノ言辭相互テ決意定  
 見ナキヲ以テス何福ニ陰モ亦駄旨ヲ以テ頻リ之ト討論シテ  
 己マサレハ乃チ益田君ハ之ニ告ルニ其多辯ヲ要スル須ヒス  
 卿モ此約ヲ調成セシト歎ス宜シク余ノ言ヲ聽ケヨ卿亦其  
 說ヲ遂ケシト歎セハ我情ハ必ス此約ヲ信了セサレ可シト因テ  
 何氏ハ之ヲ許す如ク詢リ明日必ス之ヲ決定スヘキトテ約

乞ん益田君を本旅寓に歸し  
 其翌五日(二月十三日)朝マシフシハ書ヲ以テ石炭ノ價格ヲ三池ハ  
 三弗五控セシト唐津ハ四弗今福三弗加控五セシト多クハ  
 四弗刻控五セシト俄下セシテ要求シ且ヒトマシラシテ其  
 俄下ラケフノ事情ヲ申請ス三人ハ之ヲ熟議シテ三池ハ官  
 山ニ係ルヲ以テ殊ニ其價ヲ進メテ四弗トシ其他ハ要求ニ應セ  
 レテ決シテ回報ニ是ヨリ先キ何福ニ陰モ許厚如ノ稟議  
 シテ連約豫防ノ爲メ或モ兩ラ出スヘシトシテ此金額ニ三週  
 間ニ辦出シメシルハ該金額ヲ相連ナク領收シテ其由ヲ報  
 スヘシト云後書ヲ我ニ差出スヘキト決談シ且小麦ノ員  
 額代價モ承諾シタレハ今此石炭ノ一ヲ議決シテ始メテ百  
 事協議ニ至リシヲ以テ直ニ本日ヲ以テ約定書ヲ作り之  
 ヲ調印セシトス臨々其無文ニ定価銀價上海波シノ

丁ヲ記其因テ之ヲ責ムマシト更ニ上海又ハ清國印度ノ諸港  
 ニ於テ之ヲ領收スモ不可ナキヤ同フ三人ハ差マシ其運賃ハ及  
 保險ノ費用ヲ支辨セハ不可ナキ旨ヲ以テシテ俄ニ約束書ハ上  
 海波シト記スヘキトナレテ此項ヲ團結スヘキト決シヒツトハ英  
 國語ノ約定書ヲ臆懼シテ三人ハ之ヲ洋譯シテ日本語ノ約  
 定書ヲ作り而シテ清國語ノ約定書ハ澳國領事館ノ書記  
 官ハリス氏之ニ任シ夜也時ニ至リテ漸ク之ヲ整理シ日本領事  
 館ニ於テ復シ方主任及關係ノ各員ハ相集會シテ本行  
 定書ニ通覽(英國語日本語清國語共)ニ記名調印セ  
 リ其會合ノ各員ハ左ノ如シ

貸方主任  
 同  
 借方主任

益田 榮一  
 許 厚子 如

在上海英商リリーテイウエニス支配人

物品取扱之付清國政府代理人

マンスン

右約定書之鈐印セシ名氏

大蔵省少書記官

岩崎ハニ郎

内務省西産英人

ヒツトマン

清國人

何福陰

是ハ清國通商ノテ西リテ内府ノ内達ノ如キ業ヲ務メ  
此度於此等ノ屬ニテお貸付ノ事ヲ取扱フ者ナリ

澳國之使館書記役

ハース

是ハ澳國書記役相勤メ清國語ニ通スルヲ以テ本會  
ノ事ヲ取扱フ者ナリ

總領事

品川忠道

右約定之圖與スルヲ以テ會同セシ者

右記名調印シテ後會同ノ各員ハ許字如ク調印ヲ要ス

ルカ為メ直ニ何福陰ノ家ニ携リテ其鈐印ヲ了セリ蓋清

國ノ憲法ニテ其印信ヲ蓋スハ他ト之ヲ携ル者セザルヲ以テ

即チ何氏ノ家ニ就キ調成ス可ナリ

約定書各通ノ字及附属ノ書類ハ別ニ具載シテ上進ス

右約定書中ニ別紙海關証票有テ異ラカシ証票ヲ添ス

ヘシトアリテ其騰本ニ許字如ク調印スル可シハ若クハ印ナキ

ハハ後日ノ紛行圖ヲ難キトラレイ子一氏ノ忠告ニ依ルモノナリ

許字如ク受テシ委任状ハハリス氏之ヲ寄リテ我ニ付スル

所ナレハ其証トシテ同氏之ニ調印スル可シ

○招商局ニテ借銀ヲ要スル為メ清國ハ  
朱其詔面話之事

清國上海ニ開店セル招商局ハ其設立スル所私會ニ似タリト  
雖氏曾テ季鴻章ノ創意ニ係リ爾來清國政府ハ銳  
意之ヲ管保シテ其當任ハ貴重ノ官負ラ以テシ常ニ其事  
務ヲ調査シ專ラ運輸ノ便ヲ用キテ通商ヲ盛大ナラシム從  
前歐亞各國ノ會社ニ於テ占有スル清國各港往返ノ船舶  
ヲモ悉ク此招商局ニ歸セシメ以テ内國ノ港灣ヲ專取シ傍ラ  
其航路ヲ外國ニ及サントノ目的ニテ爾來既ニ吳湖ヨリ上海  
ニ達スル鑛道ノ如キモ其初英商チャルジン其他ノ者立會シ  
テ創造セシヲ明治九年十二月清國官吏朱其詔ト英國  
公使館ノ書記官(但此書記官ハ立會ノ代理ニ任シタル者)トノ間ニ於テ談決シ於爾  
テール貳拾萬兩ノ金額ヲ以テ清國政府ニ購取シ又明治

十年二月九日旗昌號 船商會ノ有スル漢口其他諸港  
 へ往返ノ航路及其滌船十八艘ト各所碼頭ノ地  
 等ニ至ルマテ悉ク之ヲ買入レ其費ハ實ニ海關テール貳百萬  
 兩ノ巨額ニマリ今此構造ト營業ノ情景ヲ觀察スルニ恰モ  
 我カ三菱會社ノ如クニシテ而シテ其目的ノ汎ナル着手ノ大  
 ナル更ニ之ニ加フルアルモノニ似タレハ清國政府  
 之ヲ保護スルモ亦  
 幾層ノ厚キニ居ラシム然面シテ其船舶購取ノ費途ニ於  
 テ曾テ他ニ借銀ヲ企望スルヲアリテ客歲 月ノ間招商局  
 ラ管理スル清國政府ノ官吏朱其詔ナル者ヨリ我總領事  
 品川忠道ニ詢ル蓋朱其詔ハ品川ニ面識アルヲ以テナリ後又  
 上海在留ノ普國商會「ミユラー」ナル者ニ依リテ屢其議ヲ  
 請求シタリキ

品川忠道ハ其來囑ヲ以テ日本ニ通知シ若クハ第一國

立銀行等ヲシテ此需メニ應セシメント欲シテ 月 日ヲ以  
 テ書ヲ福原大佐ニ東京ニ致シテ(時ニ福原大佐ハ許厚  
 如ヨリ請求スル貸附金ノ「係」リテ東京ニ在リ)其ヲシテ  
 大蔵卿閣下ノ内旨ヲ伺候シ且銀行頭取ニ協議セラ  
 レン「ト」ラ望メリ

大蔵卿閣下ハ其書牘ヲ一覽セラレテ後之ヲ澀澤榮一  
 益田孝ニ示シ且諭「曰」卿等既ニ許厚如ノ請求スル借  
 銀ノ案件ニ付テ或ハ上海ニ駁行スル「ト」ス幸ニ其行アラ  
 ハ併セテ此招商局ノ實況ヲ探訪シ其需ムルノ要旨ヲ聽了  
 シテ便宜之ニ應接スル所アレヨ若シ其約款協議ニ至ラント  
 スルニ於テハ其貸附金額ノ如キハ之ヲ華族中ニ徵スルモ亦  
 以テ不可ナル「ト」ナカルヘシト

既ニシテ許厚如ヨリ請求スル清國政府へ貸附金ノ内議ヲ

決セラレ澀澤榮一益田孝ノ上海ニ達スルヤ品川総領事ハ兩人ニ告クルニ此案件ノ詳細ヲ以テ且曰凡此地ニ到着スルヲ聞カハ未其詔コエラレノ輩ハ必ス其面接ヲ請ハシ宜シク之ニ應シテ其需ムル所ニ從テ回答スル所アレト時ニ兩人ハ以爲ク今朱氏及コエラレニ面接シテ若シ其需ムル應セサレ或ハ他ノ主任ノ案件ニ妨害ナキヲ得ヌカス先ツ許厚如ノ談判ヲ決シテ兩後朱其詔ヲ見ント因テ品川ニ答フルニ其旨ヲ以テシ彼等兩人ニ面接ヲ望ムモ謝スルニ多忙ヲ以テシテ時日ヲ稽延スヘシト

然而シテ朱其詔及コエラレハ三人ノ此地ニ抵ルヲ聞知スルヤ果シテ其面晤ヲ品川ニ要スル頻サリ是ニ於テ澀澤澤ハ岩寄ト共ニ二月八日ヲ以テ始テ先ツコエラレヲ旅寓ニ延テ之ヲ接見ス

コエラレハ先ツ我ニ問フニ招商局ニ借銀ヲ要スルハ曾テ品川ニ就テ其仔細ヲ演述セシニ付既ニ同氏ヨリ之ヲ詳悉セシヤト依テ答フルニ其大意ハ品川ヨリ聞知スルト雖凡ソ貸借ノ案件ノ如キハ殊ニ面議ニ於テ各其要望ヲ陳セサレ其意見ヲ詳悉スル能ハサルヲ以テ是ニ於テ此借銀ノ要件ヲコエラレト應答セシハ左ノ數項ノ如シ

- 一 問招商局ノ要約ニ於テ借銀ハ海關ニ於テ百兩ヲ以テス而シテ日本第一國立銀行ハ能ク之ヲ調成スヘキヤ答其抵當品確實ニシテ約款満足スルヲ得ル之ヲ承諾スヘシ
- 一 問該抵當品招商局ノ有スル船舶及地所倉庫等ヲ以テセハ如何答其船舶及地所倉庫ノ如キハ縱令此抵當ニ充テスルモ我ニ於テ未タ該局ノ營業ヲ詳悉ス且其物件ノ實況ヲ了知セサルニ付之ヲ確實ト為スヲ得ス

一 問若シ其抵當意ノ如クナレハ利息ハ幾許ナルヤ答委  
 貸借ノ要件ヲ了セスシテ利息ノ額ニ論及スルハ其月  
 更ニ問只其際畧ヲ預知セン答利息ハ約款ニヨリテ昂低  
 アルヘシト雖氏既子百分ノ十以上タルヘシ

一 問貸附金ハ上海テールナルヤ又ハ日本圓銀ナルヤ答日  
 本圓銀ヲ以テ横濱ニ於テ貸附スヘシヤ其談判ニヨリテ  
 比較ノ相場ヲ定メ上海テールヲ以テ之ヲ貸附スルモ亦以テ難  
 カラサルヘシ

右ノ談判畢リテ「ミユラー」ハ此案件ニ付澀澤ノ朱其詔ニ面  
 會セラレシヲ乞フ澀澤ハ岩崎ト協議シテ之ニ答フルニ此借  
 款ノ未タ協議ニ至ルノ定案ナキヲ以テ更ニ他日ヲ約シテ朱其  
 詔ヲ見ヘシト云然レ氏「ミユラー」ハ強テ朱氏面會ノヲ乞フテ  
 乙マサレハ乃チ明後十日ヲ以テ「ミユラー」ノ宅ニ於テ接見スヘキト

ヲ約シテ去ル

「ミユラー」氏トノ兼約ヲ踐ミ二月十日岩崎澀澤益田ノ三人  
 ハ同氏ノ宅ニ抵リテ朱其詔ヲ見ル時「ミユラー」及「クレルク」朱  
 其詔ノ通辨人モ共ニ其席ニ在リ賓主座定リテ後寒暄ヲ  
 叙ヘ畢テ朱其詔問ニ招商局ノ事ヲ以テス因テ其抵當  
 品ノ我カ要望ニ應セサルヲ答フ朱其詔又問ニ其抵當  
 何ヲ以テ満足スルヤト答フルニ海關ノ收稅ヲ以テ其証票ヲ抵  
 當タラシメント望ムヲ以テス朱其詔大ニ難色ナリ然レ其借  
 銀ノ求需切ナルヲ以テ頻リニ其方法ヲ案スルノ意其面ニ顯ハ  
 ル且其言辭頗ル沈靜ニシテ要事才幹アル者ノ如シ而シ  
 テ「ミユラー」其間ニ介シ鄙慢ノ言ヲ以テ我レヲ輕視シ強テ  
 其事ノ調成ヲ欲スルカ如クナレハ乃チ三人ハ「ミユラー」沈  
 論數次ニシテ到底其望ハ所ノ抵當品ニテハ此借款ハ協



議ニ至ルヘカラサルヲ切言シ畢テ朱其詔ト共ニ午餐ノ席ニ就ク蓋是「ミユラー」ノ我ト朱其詔トヲ招待スルヲ以テ此設ケアル所ナリ

午餐畢テ朱其詔ハ明日我旅寓ニ來訪シ此應答ヲ謝セント云依テ三人モ他日其宅ニ答謝スヘキヲ約シテ去ル  
二月十日朱其詔ハ「ミユラー」在ニクレルクニ伴ヒ旅寓ニ來リ又其借銀ノ談ニ及ビ其應答ノ次第ハ左ノ數項ノ如シ

一 問此借銀ニ付招商局ノ所産及船舶ヲ抵當トシ加スレバ清國政府ハ若シ同局期ニ届リテ返金ヲ忘ラハ之ニ代リ償辦スヘキヲ保證セハ如何答テ清國政府ノ保證ニハ借主ハ招商局ニアリテ萬一ノ事アラハ其終局ニ於テ猶延ノ恐レナキ能ハス故ニ此抵當ハ獨リ海關証票ヲ以テ清國

政府ヨリ此殊付スルモノニ限ルヘシ

一 問若シ海關証票ヲ以テ抵當トセハ貸與ノ金額ハ如何シテ交付スルヤ答テ米銅石炭小麦等ノ物品ヲ以テ其六分ヲ與ヘ他ノ四分ハ日本定位銀貨質易銀又ハ洋銀ヲ以テ之ニ充ツヘシ且其為替相場ハ百弗ニ付上海規銀七十七テールナルヘシ

右ノ問答ニ付テ「ミユラー」ハ頻リニ我ニ要求甚過當ナルヲ論スレトモ朱其詔ハ敢テ其細事ヲ言ハズ只抵當品ノ我カ需メニ應スル方法ヲ按スルノ色アリ談畢テ朱其詔「ミユラー」共ニ歸ル

二月十二日二人ハ朱其詔ヲ訪フ蓋昨日ノ來訪ニ酬ユルナリ  
皆三人ハ品川總領事ニ依リテ清國通辦官ヲ伴ヒテ三付「ミユラー」并「クレル」ノ輩ハ來會ニ來其詔モ亦英語ニ通スル清國

人李滄橋ヲ伴フテ以テ談話頗ル隨意ナリ座定テ先ツ  
 同氏ノ曾テ日本ニ來港セシ旅況ヲ問ヒ話次高島其他  
 ノ鑛坑及ヒ大阪造幣寮富岡製糸場等ノ一ニ及テ而後  
 頃日來數回應答セシ借銀ノ案件ニ至ル三人ハ朱其詔ニ  
 告ルニ外國人ヲシテ其間ニ介セシムルノ有害無益ナルヲ説  
 明ス朱其詔大ニ慚色アリ且曰當初此説ヲ試問セシハ曾テ  
 品川總領事事ニ面談アルヲ以テ其接見ノ間ニ於テセシ後  
 「ミユラー」ノ聞知スル所トナリテ其周旋ヲ望ムニヨリ或ハ外人  
 必セシメハ以テ調成ヲ速カニセント意思シテ今日ニ至リシナリ  
 然リ今兄等ノ説明ヲ聽テ大ニ了得スル所アリト然レモ其  
 抵當ノ一案ニ於テハ素ヨリ同氏ノ決定シ得ヘカラサレテ以テ  
 更ニ之ヲ考案經畫シテ後再ヒ其照會ヲ為スヘシト依  
 テ三人ハ他日其事アラハ幸ニ品川總領事「福原大佐

ニ就テ親議スヘキヲ告ク朱其詔大ニ喜色アリテ我レノ  
 懇情ヲ謝セリ朱其詔ハ又三人ニ問テ曰若シ抵當品ノ一  
 協議シテ此借款ヲ調成スルニハ其金額ハ海關テール壹  
 百萬兩ナルヘシ而シテ其貳拾萬兩ハ石炭ヲ交收スヘシ但  
 米ハ之ヲ受取り難カルヘシ借銀ノ利足ハ年壹割ハ貴キニ  
 過クルヲ以テ海關証票ノ抵當タラハ幾分ヲ減スヘキヤト  
 依テ答フルニ若シ此事協議ニ至ラントモハ其物品交付ノ  
 際ニ於テ大ニ關係ヲ有スルヲ以テ今日利足ヲ減スルノ額ハ  
 明言シ難シ而シテ石炭ノ如キハ從前外國高ノ清國へ  
 輸送販賣スルハ其價甚多シ故ニ他日此借款ヲ結了  
 スルノ好機アラハ該品ヲ交付スルニ於テハ勉メテ最良ノ措  
 置アルヘシト朱其詔曰石炭ハ我邦ニ乏シクシテ貴國ニ餘  
 リアレハ縱令此借款ヲ調成セサルモ更ニ求需ニ從テ之ヲ喫

會スヘシ

右ノ談話ヲ為シテ三人ハ朱其詔ニ告別シテ旅寓ニ歸ル  
 二月十三日朱其詔ハ亦福原大佐ノ僑居ニ來リ福原ニ  
 面會シテ此借款ノコトヲ談シ且曰抵當タル海關証票ノ如  
 ハ勉メテ総理衙門ニ請ハズ或ハ其許可ヲ得ヘシ然而シテ其利  
 足ノ額甚タ貴キニ過クルヲ以テ更ニ之ヲ審察スト福原モ温  
 言ニ接シテ其他件ノ協議ニ至ラントス然ラテハ聊低下シ  
 得ヘキトト思想スルモ昔ラ答フ是ニ於テ先ツ石炭ノ品位ヲ試  
 用スルカ為メ各其見本志願ツテ長寄ヨリ送與セラレン  
 コトヲ請フテ去ル  
 三人ノ上海ヲ發スル日(二月十四日)朱其詔ハ他方ニ赴クヲ以  
 テ 滄橋來リテ告別ス

○上海商況之事

上海ハ清國各開港場中最大ノ埠頭ニシテ其商業ノ感大ナ  
 ルハ之ヲ海關收税ノ額ニ徴スルモ尚一斑ヲ知ルヲ得シテ外國商估ノ  
 此地ニ寄留スル者際算六千五百餘人ナリト云ヘテ其屋宅ノ  
 壯麗稠密ナル我橫濱ノ比ニテ尤モ就中英國人ノ居留地ハ  
 構造殊ニ美大ナリ

上海ハ吳淞江ニ瀕シテ開港ニ先ニ埠頭ナレハ直ニ大洋ニ接セスト  
 雅氏江深クシテ巨艦ヲ碇泊スヘクシテ外國船ノ進出口モ頗ル多  
 ク加ヘテ清國小船ノ碇泊スル常ニ帆檣林立ニテ清國各港ニ  
 往返スル河海ノ便ニヨリテ約日ノ郵船ヲ以テ行旅ノ多キ物  
 價ノ殷ナル實ニ發島ノ堪ヘタリ

外國商估ノ居留地ハ都テ吳淞江ニ瀕シテ尾薨相接ニ  
 延ヒテ清國市街ニ連ル而シテ清國市街ノ隘雜汚穢ニ實

厭フヘキニ堪クナリ江ノ沿フテ外國人居留地ヲ彷徨シ路ヲ  
轉シテ清國市街ニ入ルハ怪モ晝夜ノ觀ヲ為ス尚錦一街ヲ  
脱シテ垢衣ヲ着クルノ想アリ

上海ニ見外國銀行ハ麗如<sup>オリエニタニハシク</sup>滙豐<sup>ホシエレヤレハイハシク</sup>  
有利<sup>キーユーカニタニハシク</sup>ノ三店其首<sup>ノ</sup>店<sup>ニ</sup>而シテ清國人ノ  
開店先銀行ノ如キモ五康壽康升吉ノ三店ハ頗ル敏利昌ナ  
リト云

古銀行開店ノ景況及貨幣通用ノ制ハ曾テ探討セシ  
筆録ヲ抄出シテ以テ茲ニ彙覽ニ供ス

通用貨幣ハ上海規銀及墨銀ヲ以テテ種凡其比較ハ時  
價ニ從テ昂低アリ而シテ上海規銀ト唱ルハ一種ノ通貨稱  
呼ニ構成セシモノコレテ其實物銀塊即チ皆銀コレテ完  
全ニ通用貨ト云難シ只其稱呼常ニ時價ニ從テ墨銀

其他ノ貨幣ト相昂低シテ以テ貿易ノ媒介ヲ為ス

上海規銀ハ<sup>ノ</sup>概<sup>メ</sup>ス<sup>テ</sup>ハ<sup>カ</sup>ニ<sup>カ</sup>リ<sup>シ</sup>メ<sup>ス</sup>ノ<sup>稱</sup>呼<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>

大小ノ數ヲ計算スルニテ<sup>ハ</sup>規<sup>銀</sup>必<sup>ズ</sup>モ<sup>母</sup>目<sup>ノ</sup>量

目<sup>ヲ</sup>有<sup>ス</sup>モ<sup>ノ</sup>ハ<sup>マ</sup>テ<sup>ス</sup>其<sup>名</sup>同<sup>シ</sup>キ<sup>ヲ</sup>以<sup>テ</sup>慣<sup>法</sup>ニ<sup>執</sup>セ<sup>ル</sup>人<sup>ハ</sup>時<sup>々</sup>

計算ニ誤謬ヲ生ズト云

又海關<sup>テ</sup>ハ<sup>ノ</sup>稱<sup>ス</sup>モ<sup>ノ</sup>多<sup>ク</sup>西<sup>方</sup>ノ<sup>收</sup>稅<sup>ニ</sup>用<sup>フ</sup>其<sup>制</sup>上海

規銀<sup>即</sup>チ<sup>ハ</sup>銀<sup>子</sup>ヲ<sup>百</sup>枚<sup>ニ</sup>テ<sup>ハ</sup>四<sup>テ</sup>以<sup>テ</sup>海<sup>關</sup>ノ<sup>收</sup>稅<sup>ニ</sup>

當<sup>ル</sup>ス<sup>ル</sup>モ<sup>リ</sup>且<sup>チ</sup>較<sup>量</sup>ハ<sup>西</sup>方<sup>ノ</sup>制<sup>定</sup>ニ<sup>對</sup>シ<sup>テ</sup>各<sup>海</sup>關<sup>ノ</sup>收<sup>稅</sup>

ニ用<sup>フ</sup>ル<sup>ル</sup>ニ<sup>ハ</sup>其<sup>割</sup>合<sup>ハ</sup>時<sup>價</sup>ニ<sup>從</sup>フ<sup>ル</sup>ト<sup>雖</sup>モ<sup>モ</sup>多<sup>ク</sup>異<sup>ナ</sup>ラ

生ズルナリ

此海關<sup>テ</sup>ハ<sup>ノ</sup>稱<sup>ヲ</sup>制<sup>定</sup>ス<sup>ル</sup>源<sup>因</sup>ハ<sup>元</sup>來<sup>廣</sup>東<sup>ニ</sup>於<sup>テ</sup>廣<sup>東</sup>テ

ル<sup>ノ</sup>稱<sup>呼</sup>ヲ<sup>以</sup>テ<sup>通</sup>用<sup>セ</sup>シ<sup>テ</sup>清<sup>國</sup>政<sup>府</sup>ハ<sup>之</sup>ヲ<sup>換</sup>ヒ<sup>テ</sup>海<sup>關</sup>テ

ル<sup>ノ</sup>稱<sup>呼</sup>ヲ<sup>以</sup>テ<sup>通</sup>用<sup>セ</sup>シ<sup>テ</sup>清<sup>國</sup>政<sup>府</sup>ハ<sup>之</sup>ヲ<sup>換</sup>ヒ<sup>テ</sup>海<sup>關</sup>テ

以テセシト欲レテ較量ト稱呼ヲ作レルモノナリト云  
廣東テレンノ較量ハ海關テレンヲ僅ニ相減スルモノニシテ即今  
海關テレンノ制ニテ上海ニ於テハ其稱呼ヲ以テ貿易ノ計美  
ニ用テラレタリナリト云

金塊ハ天鎰天豐天吉ト唱ル三種ニテ其量目  
ハ九テレン七メースニテ然レテ其賣買ハ時價ニテ品  
位ヲ較量シテ取引ヲ為ス但清國政府ハ久シク其鑛山ノ  
開採ヲ禁止スルヲ以テ現品甚々稀少ナルハ其賣買モ僅  
ニナリト云

銀塊ハ多種アリテ元寶銀ト唱ルモノ最多シ上海規銀ノ  
實物ヲ得ント欲セハ即此銀塊ヲ受取ルナリ然而シテ從前此  
銀塊ニ確然タル品位量目ノ制定ナキヲ以テ其純銀ノ計  
算ニ於テハ清國政府ヲ以テ高估著ク至ルマテ未タ之ヲ詳

悉セシモノアラズ只之ヲ詳悉セザルニナラズ物價清算ノ際或ハ此  
銀塊ヲ交收スルモノ其通用ニ得キテレン稱呼ハ敢テ其實量  
ニヨリテ輕重ナキヲ自以テ其純分ヲ調査スル意ヲ力加シ習慣  
ノ之ニ終ル外國各銀行ノ如キモ亦此實量ヲ調査スルモノナシ

元寶銀ノ量目ト通用テレンノ割合ヲ定ムルハ公估局ニ於テス  
公估局ハ猶旧幕府ノ銀座在者ノ如シ公估局ハ政府又ハ人民日  
リ返ル所ノ銀塊ヲ受取リテ其品位ヲ試驗シ定則ノ品位日  
リ混合物多キハ之ヲ返却シ品位定則ニ適スレハ銀塊ニ  
量目ヲ記シ其品位ニ應ジテ増量又ハ減量ヲ加テ之ヲ申水  
去水ト云以テ通用テレン割合ヲ現ハシ之ヲ通用規銀ノ實物  
トス且其品位定則ト云フモ真成ノ試驗分析ヲ為レテ之ヲ  
定ムルモノナラザルヲ以テ時々多少ノ差違有ルヲ免レサレハ之ヲ確然  
タル純分ト云フヲ得ズ然レト雖モ其通用ノ際ニ於テハ此慣法

より多運用シテ障碍ナキニ向テ其實量ヲ詳忠ニ云  
五ラサナリ

右銀塊ノ通用稱呼ト實量ト異違ヲ明カスルハ當テ  
此各種ノ銀塊ヲ購入シテ之ヲ分析シテ計算ト及今更ニ  
其二塊ヲ携テテ造幣局ノ分析ヲ徑テ計算書ヲ  
添テテ其忝觀ニ供ス

通用ノ銅錢ニ三種アリカ錢市錢雙斷錢トカ錢ハ多ク  
負租ニ用テ其品種ハ銅又ハ真鍮ニシテ百孔ヲ以テ百文ト  
ス市錢ハ市巾一般ノ通用物ニシテ九十八孔ヲ以テ百文ト且  
其中ニ微細ノ忠錢控孔ヲ加フルヲ通法トス雙斷錢ハ別ニ  
唱フルノ名ニシテ市錢ト大異ナレ只微細ノ忠錢ト云ハ銅又  
ハ真鍮錢九十八孔ヲ以テ百文トス  
總テ通用ノ錢ハ其品乏シキヲ以テ瑣少ノ取リハ商估常ニ

困窮ノ姿アリ現ニ目下上海ニテモ我國ヨリ傳輸ス人カ車  
アリテ人々之ヲ至便トシ漸次増加ノ姿アリト雖其運賃仕  
拂ハ於テ少貨少キニ困スルヲ商估ハ多ク其運賃ヲ計算ス  
テ車夫ニ交付シ置キ他自之ヲ集メテ其運賃ヲ清算ス  
ト至ル他ノ物品賣買間ニ於ルモ亦推知スルニ至ル

是ヲ以テ我々小銀貨ハ其通用甚々至便ナリ既ニ滯在中時  
ト人カ車ノ運賃ニ交附シ及外國割賣店等ノ小費ニ交附  
スルニ敢テ之ヲ厭フヲナクシテ却テ其利控錢ヲ貨幣ヲ以テ  
洋銀ニ元ノ四分ノ一ニ適應スルヲ認ム故ニ之ヲシテ更ニ其  
多量ヲ通用セシメテ人々其輕便ヲ知テ至テハ其求需洋  
銀ニ亞リハキハ今日ニ至テ確言スル得ヘシ只貿易銀ニ至テハ  
既ニ洋銀アリテ清國人ハ之ニ依頼スルヲ以テモシ亦ハ清國政府  
ニ於テ之ヲ海關收税ニ加フル等ノ殊例ナキハ縱令輸送ス

ルモ直之ヲ銀塊ニ改鑄ス迄ナシ故ニ其計算ハ甚々不適  
當ノ割合ニ至ルヘシ

貿易品ハ輸出ニ於テハ桑生絲ヲ最大トシ而シテ輸入ハ鴉  
片其尤ナリ其價額恰モ茶ト生絲トノ總額ニ適當ニト  
云リ

日本ヲ輸出スル海産ハ清國人民ノ上等食料ナリ多ク直隸  
山東兩省ニ輸送スル我カ廣業高會ノ支店ハ專ラ  
其賣却ニ從事スルヲ以テ漸ク其緒ニ就クヲ得ヘシ

石炭ハ清國ニ炭坑ナキヲ以テ近日其求需ヲ増スヤ必セリ目  
下清國ニテ使用スルハ多ク其玉瀉「キロシ」ノ出產ヲ以テスルシ  
テ福州ニ亦小炭坑アルト雖ニ開採充分ナク故ニ彼ノ  
招商局及各地ノ製造所等ニ我九州ノ石炭ヲシテ其運  
送便ト商業ノ術ヲ得テ充分ノ使用ヲラシメハ其需求ハ益

増加スルニ至ラシキ

茶ハ歐米ニ於テ清國製ヲ好ムヲ以テ我九州産ノ山茶ノ如キハ  
之ヲ清國物トシ且清國ノ職工ヲ雇フテ方法ヲ傳習シ  
更ニ彼レノ高估ニ謀リテ販賣ヲ為セハ又幾分ノ輸出ヲ  
得ヘシ故ニ其方法別冊ノ考案書ヲ以テ本年ヨリ之カ  
試驗ニ着手セリトス

米穀及銅錢ノ如キモ右時トシテ價格相懸スルアリ且清  
國ハ凶歉ニ際シテハ殊ニ食料ノ輸送ヲ緊務トスル風アリ  
ハ常ニ我産出ノ中下米ヲシテ彼國ニ送リテ其使用ヲ試  
みるモノ亦不時ノ需ニ供スル一助スラン銅ハ天津以北ニ運  
搬シ及印度ノ相場ニ在リテ其高價ヲ為スモ我橫濱ヨ  
リハ更ニ便宜ヲ得ルニ近カラシ

材木ハ漸次其使用ノ方法ヲ知ラシム而シテ需用ニ應ジテ

間隙ナリ輸送至て至ラハ必ス其販賣ハ多量ニ至ラシ是  
 蓋清國沿海ノ地方ハ殊ニ材木ニ乏シキヲ以テ其價格モ必  
 充分ノ額ニ昇リ得ヘシ  
 我レト輸入スヘキ物品ニ於テハ別ニ新案ヲ具セスト陸氏台湾  
 糖ノ如キニ至テハ此地ノ實況ヲ詳知シテ賦取ノ方法ヲ案セハ  
 亦幾分ノ便宜益ヲ得ルキ事  
 居留外商ノ營業業ヲ察見スルニ仲買者流ニ類スル者多  
 シト思ハ其間素アリテ定業アリテ存スル者モ亦多シト陸氏  
 麗如滙豐有利ノ各銀行又ハ有名ナル商會等ヲ除  
 クノ外ハ敢テ一事ヲ定メテ營業業ヲ為ス物品ノ時價ニ應  
 ジテ之ヲ賣買シ或ハ外方ノ來信ニ應ジテ其後進出ノ間  
 ニ幾分ノ差益ヲ收ルニ徒ナリ故ニ本年ハ此物ヲ以テシ  
 來歲ハ彼品ヲ以テスル額多シルニテ清國商估ハ小利ニ

巧ニシテ加ヒテ金貨禁殺得ニハ貿易ノ嶮惡ナルモ亦我横  
 ノ比ノ如クナラザルヘシ  
 在上海ノ洋商間ニハロークルノ組合ヲ立テ以テ通商ヲ便ス其  
 制恰モ英米等ノ行ハルモノノ如ク而シテ此ブロークルハ決シテ他  
 ノ商會ヲ取ラス且其組合中ノ約束ヲ嚴シシテ皆之ヲ確  
 守ス故ニ洋商ノ其業亦繁榮盛ナルハ其物品ノ高價買取  
 金銀ノ貸借借費モ皆甚少ノ事數料ヲ徴シテ此ブロークル  
 ヲ以テ取扱ヘシムルヲ便トスト云  
 右ハ清國政府ノ貸附金事務務取扱ハ自彼地旅行  
 及滞在中ノ諸事且見聞ノ件ニ其概要ヲ摘録  
 シテ謹テ報告仕候且此報告書副フヘキ書類ハ  
 都テ其詳ヲ附シ併テ具申仕候也

明治十年四月 日

東京

第一國立銀行



岩崎小二郎

法澤榮一

益田孝

大隈大藏卿閣下

東京

第一國六銀行

東京

第一國立銀行

日本文條約書寫



大正十一年四月  
大隈侯爵郵寄贈

一方ハ大清國政府欽差幫辦新疆軍務大臣  
頭品頂戴烏魯木齊都統金ノ札ヲ奉シテ之ヲ  
辦理スル所ノ江蘇候補道許厚如亦一方ハ大日本  
第一國立銀行ト、同ニ西曆一千八百七十七年  
光緒二十二年三月三十日二月十二日議定スル所ノ換約條款

光緒二十二年 月 日 (一千八百七十六年 月 日) 寄送セル金大臣  
ノ命令書ニ因リ清國政府ノ考メニ海關銀貳百五拾万兩ヲ  
上海ニテリテ借入ル事ノ委任ヲ以テタルニ自茲ニ双方此分  
定ラ結ビ左條ノ款目ニ照レテ之ヲ實際ニ取行フニ相違ナカ  
ラン事ヲ證明ス

第一條

清國政府ハ此約定ノ款目ヲ實際ニ取行フタメ上海ニアル  
英商リイドイウエンス高會ヲ以テ其代人ニ撰任セリ

第一條

借入スル金額ハ海関銀貳百五十萬兩ナリ而シテ其利息ハ  
西曆一千九百零一年ノ數ヘテ借入金額ニ對シ海関銀壹百  
兩ニ日海関銀八兩五錢一八分トス  
借入レノ元金ハ毎年十月初一日ヲ以テ海関銀貳拾五萬  
兩宛テ年賦ニシテ返入スヘシ而シテ第一次返納ヲ一千八百  
七十八年第十月初一日トシ最後ノ返納ヲ一千八百八十七  
年第十月初一日トス  
元金ニ附スル所ノ利息ハ毎年二度ニ拂入ル可シ即チ第五月  
初一日ト十一月初一日ナリ  
借入金ノ元利返入ノ割合ハ一千八百七十八年第十月初一  
日ヨリ指箇年間に元利一併ニ還清スヘシ

第三條

元利返還ノ抵當トシテ清國政府ハ此約定ニ副ヘタル別  
紙雜形ノ如キ證票ヲ上海漢口廣東三港ノ海関ヨリ  
出スヘシ而シテ其證票面ニハ

兩江總督

江蘇巡撫

江南(上海)海関道

兩湖總督

湖北巡撫

漢口海関道

兩廣總督

廣東巡撫

粵海海関道

一律蓋印シ信号ヲ昭カシ外ニ右三箇所ニテハ海関外  
國理事官之ニ調印シテ其事ヲ記録スヘシ而シテ許  
總理衙門ヘ申立テ右箇ノ各官憲ハ該衙門ヨリ適用ノ  
示令ヲ考ス様ニ辦理スヘシ

第四條

該海関証票ハ讓渡レ賣渡シスニ差支ナキモノニシテ若シ  
其期限ニ至リ清國政府ヨリ拂戻セラザル時ハ清國

政府ハ當ニ此証票所持人ヨリ海關稅金ノ代リニ右証票ヲ受取ルヘキモノトス

第五條

該海關証票一個ノ記載金額ハ海關ラール五千ラール以下壹千ラール以上タルヘシ

第六條

該海關証票ヲ以テ抵當トシタル金額(元金利息共)ハ平時ト戰時トニ拘ハラズ又其所持人ハ親國ノ臣屬タルカ故國ノ臣屬タルカラ尙ハス清國政府ヨリ必ス拂戻スヘキモノトス而シテ右証票ホキニ之ヲ抵當トシタル元金利息金ニ向テ清國政府ハ次シテ之ヲ掠奪シ或ハ之ヲ取押ハ或ハ之レニ何様ナル賦稅ニテモ課付ナル事能ハサルモノトス

第七條

該海關証票ハ上海ニール東洋銀行(カリエンタルバンク)若ニチャールデンマラソン商會ヨリ清國政府ハ償渡シタル金額ノ抵當トシタル証票ヲ除ク外ハ上海漢口廣東ノ海關稅ニ於テ先取ノ權ヲ有シ而シテ清國政府ハ東洋銀行若ニチャールデンマラソン商會ハ出シタル証票ニ對シテ金額ノ外ハ此証票ニ對シテ金額ヲ先ツ拂戻スヘシ

第八條

前條ニ記載シタルリードイウエンス商會ハ海關証票整備後ハ之ヲ受取り而シテ其時マテ第一國立銀行ヨリ借受ル所ノ金高ニ相當シタル証票ヲ該銀行ハ支付スヘシ

第九條

若シ此約定ニ因テ發行シタル海關証票紛失スルヲ以テ當ノ第一國立銀行ヨリ清國政府ハ満足スヘキ証跡ヲ示シ且ツ其

紛失証票ヲ指得ナル者ハ次シテ拂戻スニ及ハサル旨ヲ保  
証セハ清國政府ハ當ニ新票ヲ発行シテ紛失シタル舊票  
ノ代リトスヘシ

第十條

一 第一國主銀行ハ該債與全額ヲ左ニ記載スル所ノ方法ヲ以テ  
交付スヘシ

一 海關テール 四指萬兩

一 日本舊銅貨 五萬兩

但此千貳百三指枚ヲ以テ洋銀壹萬ニ充テ

一 日本神助銀貨 指萬兩

一 銅丁銅鑄形銅貨 指六萬兩

但全額壹萬指丁銅壹指ニ洋銀貳千四年替  
鑄形銅壹指ニ洋銀貳千三年替

一 石炭 指萬兩

但三池大炭壹萬八千噸壹噸ニ自洋銀四弗多久六  
千噸壹噸ニ自四弗貳拾五セント今福六千噸壹噸ニ  
自洋銀三弗貳拾五セント唐津六千噸壹噸ニ自洋銀四弗  
替ニテ船舷渡シ

一 小麦壹萬石 概算 貳萬三千兩

但此石ニ自洋銀三弗貳拾五セント替壹石ノ重量ハ貳百

拾斤ト定ム

一 米三十萬石 概算 壹百拾萬兩

一 日本貿易銀及洋銀 概算 五拾六萬七千兩

但貿易銀ト洋銀トノ高ハ銀行ノ都合ニ依リテ之ヲ

交付スヘシ

共計貳百五十萬兩也

第十條

一 第一國立銀行ハ前條ニ記載スル所ノ舊銅貨並其他ノ物  
 産ノ全額ヲ必シモ渡スヘキコトニ限ラサルヘシト雖モ該銀行ハ可成  
 丈其額ニ充タスコトヲ勉ムヘシモ米ハ次シテ増加スルヲナサルヘ  
 シ若シ記載物品ノ全額ヲ渡ラズル時ハ他ノ物品(米ヲ除ク)  
 ニシテ清國市場ニ適スヘキ物ヲ以テ其不足ヲ補ヒ其價ハ交  
 付當日ノ相場ヲ用フヘシ若シ又他ノ物品ヲ渡ラズルハ正  
 貨ヲ以テ補加スヘシ右交付スヘキ米ハ壹石ノ重量貳百三十拾  
 斤ニ均一(清國貳百三拾カツキイ)ナルベシ而シテ其價ハ日本俵作ノ俵ニテ  
 壹石ニ付洋銀四弗七拾五セントタルベシ右米ハ日本平均良  
 米タルヘシ

右米ハ必ス日本ヨリ輸出シ第一國立銀行ノ許諾アルニ  
 フラサレハ再ヒ之ヲ輸入スル事ヲ得ス

第十條

一 清國政府ハ前條記載スル所ノ海關テール貳百五十拾萬兩ニ  
 當ル所ノ海關証票ヲ此約定調印ノ日ヨリ六月内ニ上海ニ於テ  
 第一國立銀行ニ交付スヘキ用意ヲナシ又第一國立銀行ハ右  
 貸附金額ヲ同時間内ニ清國政府ニ渡シ畢ル事ヲ用意スヘシ

第十三條

一 清國政府ハ物産或ハ正貨共其交付當日ヨリ利息ヲ起算シ  
 テ第一國立銀行ニ拂フヘシ(日本海關シニテモ)

第十四條

一 總テ物産ハ第一國立銀行ヨリ東京横濱四日市大阪兵庫  
 下ノ関長等ノ諸港ニ在ル所ノ銀行ノ倉庫ニ於テ清國  
 政府ノ代理人ニ交付スヘシ

第十五條

一 日本舊銅貨並諸物産ノ價ハ圓銀或ハ洋銀ヲ以テ之ヲ定ム



圓銀或ハ洋銀ハ百圓或ハ百弗ニ自上海ラール七指六ラー  
ル半ノ定價ヲ以テ計算スヘシ

第十六條

一 此約定書第十條ニ從ヒ第一國立銀行ヨリ清國政府ヘ貸付ス  
ル所ノ金額ハ海關銀百兩ニ自上海ラール百指六ラー四メー  
（百十一四）ノ割ヲ以テ計算スベシ清國政府ヨリ此借金ヲ返償  
シ或ハ此海關証票ヲ拂戻ス時ニハ第一國立銀行ハ上海ラール  
ヲ前條記載スル所ノ相場ヲ以テ受取ルカ或ハ海關ラール九  
百九拾八ノ元位ヨリサカラル品位且リ英量五百八拾三グレイン  
トロイ九壹ノ重量ヲ以テ受取ルノ自由ヲ有スヘシ而シテ若シ  
此ノ品位ニ自爭議アルハ大改造幣局試験師ヲシラ  
之ヲ分析セシメテ差異アル日ハ清國政府ハ之ヲ加補スヘ  
シ

第十七條

一 海關証票ノ渡方若シ借用元金及年々之ニ付スヘキ利息ノ  
拂戻シ方ハ總テ上海ニ於テ之ヲ取扱フモノトス

第十八條

一 第一國立銀行ハ此約定書第十條ニ記載スル所ノ舊銅貨  
及諸物産ヲ此約定調印後都合次第速ニ清國政府  
ヘ交付スヘシ而シテ清國政府或ハ日本ニ在ル其代理人ハ右物  
品等ヲ交付スヘキ旨該銀行ヨリ相當ノ前報アル日ハ速ニ之  
ヲ受取リ且其物品ノ價ニ當ル海關証票ヲ引換ニ交付ス  
ヘシ若シ該証票未タ整頓セラルルハ清國政府ハ第一國立  
銀行ヘ右物品ノ代價ヲ豫テ定メタル價額ニヨリテ正貨ヲ  
以テ渡スカ或ハ該銀行ノ承引スヘキ上等ノ抵當ヲ与フヘシ  
而シテ右正貨或ハ抵當物ハ海關証票整頓ノ時ニ至リ

之ト引換フヘシ

第十九條

總テ物品ノ重量ヲ定ムルハ日本普通ノ習慣ヲ以テヘシ若シ  
第一國立銀行ヨリ物品ヲ交付シタル後清國政府ハ猶之ヲ  
其倉庫ニ殘置シトキハ追テ之ヲ取去ルマデノ間右倉庫借  
科其他一切ノ費用ハ清國政府ヨリ之ヲ拂フヘシ

第二十條

此約定書第拾條ニ記載スル所ノ正貨渡ノ分ハ必ス海  
關証票ト引替ニ交付スルモノトス然レモ其全額或ハ  
幾部分ニ當ル証票整頓スルハ其額ニ應シテ之  
ヲ交付スヘシ尤モ其時ハ清國政府ヨリ第一國立銀  
行ハ相當ノ前報知ヲ為スヘシ

第二十一條

一 若シ該銀行ヨリ第拾條ニ記載セラルカ或ハ價格拾ヲ定ムル  
他ノ物品ヲ渡ス事ナルハ其物品ヲ清國政府ノ代理人  
ヘ渡シタル場所ニ於テ當日ノ時價ヲ以テ之ヲ定ム可シ

第二十二條

一 物品交付ノ後一切ノ危險責任ハ都テ清國政府ノ引受タルヘシ  
第一國立銀行ハ此約定ニ從ヒ日本ヨリ輸出スル所ノ物品ニ  
向テ通常日本政府ヨリ課付スル所ノ税金ヲ免除スル  
トテ辦理スヘシ

第二十三條

一 此約定書第拾條ニ從テ第一國立銀行ヨリ清國政  
府ヘ交付スル所ノ舊銅貨或ハ神取銀貨ハ上海ニ於  
テ渡ヘシ而シテ其運賃保險料ハ清國政府ヨリ  
之ヲ拂ヒ之ニ賦課スル所ノ輸入税ハ若シ賦税ナルト

アラハ) 清國政府ニ於テ之ヲ辦理スヘシ

第貳十四條

一 諸物品ハ若シ三菱汽船會社ノ運賃他ノ運賃ヨリ昂貴ナラフレハ三菱會社ノ汽船ヲ以テ之ヲ清國ニ輸送スヘシ

第貳十五條

一 此約定書第拾條ニ記載スル所ニ從ヒ第一國立銀行ヨリ清國政府ニ交付ナル所ノ物品ニ於テ若シ其相場重量或ハ品柄ニ付テ清國政府ト第一國立銀行トノ間ニ爭議或ハ異見アルハ之ヲ清國政府ト第一國立銀行ト双方ヨリ吾人共撰筆シタル所ノ仲裁人(即チ仲裁人等ハ若シ兩人ニテ裁決シ能ハラズルハ第三國人ニテ裁決シ能ハラズル者トシ得)ニ付テ決裁セシムヘシ右仲裁人等又ハ右兩人ニテ

撰ヒタル仲裁人ハ第一國立銀行ヨリ清國政府ニ渡シタルカ或ハ渡ラントシタル物品ノ時價重量或ハ品柄ニ於テ果シテ不充分ノ慮アリシヤ否ヲ裁斷スルノ權ヲ有スヘシ而シテ若シ右仲裁人等或ハ仲裁人之ヲ裁斷シタル以上ハ更ニ右不充分ナル慮ヲ補正スヘキ方法ヲ決定指揮スヘシ然ル後第一國立銀行右ノ指揮ニ從テ之ヲ補正セハ右不充分ノ慮ハ以テ此約定ノ違悖ト看做サレルヘシ

第貳十六條

一 清國政府若此約定調印ノ日ヨリ六月内ニ該債自金ヲ受取ラズ且之カ抵當トシテ海關証券ヲ第一國立銀行ニ渡サレルハ破約ノ償金トシテ海關條例拾萬兩ヲ第一國立銀行ニ拂渡スヘシ而シテ若シ第一國立銀行右六個月内ニ該自金ノ全額ヲ全済セザルハ破約ノ償金

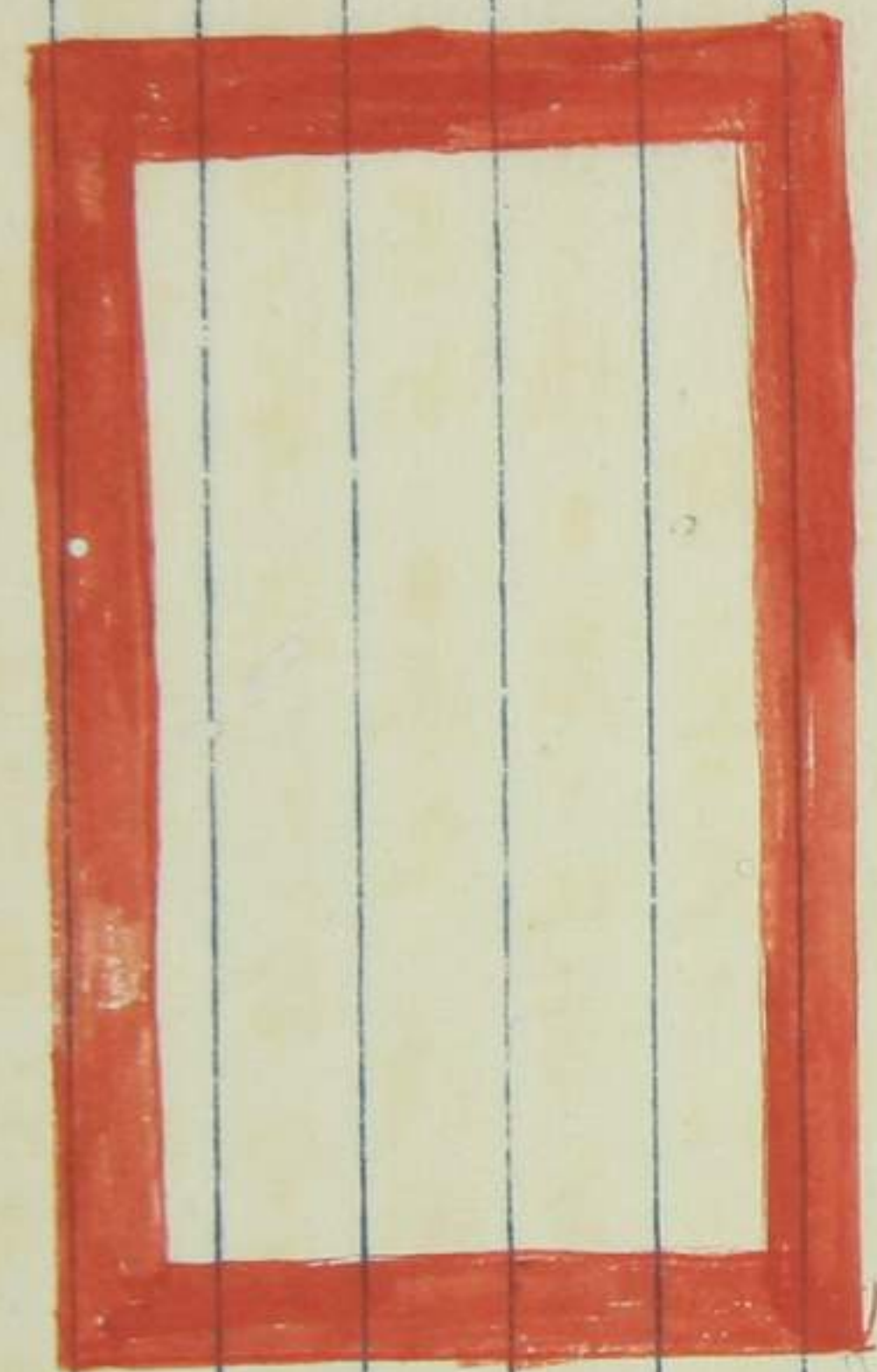
トシテ海関ラール拾萬兩ヲ清國政府ニ拂渡スヘシ

第貳十七條

一此約定ニ副ヘタル大清國政府欽差幫辦新疆軍務大臣頭品頂戴烏魯木齊都統金ヨリハ蘇候神道許厚如ハ寄送シタル命令書正寫ニ其本書ト同一モノタルヘシ此約定書面ハ日本文ト清國文トヲ以テシ加フルニ英文ヲ副ヘ置クヘシ後日若レ双方意味相通ハスレバ異議ヲ生スルコトアラハ特ニ英文ヲ以テ之カ憑據ト為スヘシ左部ニ双方僉印シテ之ヲ交換シ以後ノ信守ニ供スヘシ

明治十年二月十二日

千八百七十七年二月十二日



*Rid. Wano & Co  
agents*

第一國立銀行  
澁澤榮一印  
益田 孝

東京

第一國立銀行

東京

第一回 金行

東京

第一國立銀行

漢文約款寫



大正十一年四月  
大隈侯爵郵寄贈

光緒三年

月日

西曆一千八百七十七年

月日

江蘇候補道許

第一國立銀行 為借銀合同事今因候補道許於光緒

履泰洋行

二年二月十三日奉

欽差幫辦新疆軍務大臣頭品頂戴烏魯木齊都統前定  
邊左副將軍圖爾格齊巴圖魯金 札委向第一國立銀行  
借海關銀二百五十萬兩茲由候補道許與第一國立銀行兩  
面議明立定合同以為証據所議借銀各款開列於後

第一條

一中國特派駐滬英商履泰洋行經理此項合同條款

第二條

一 借款議定歸海關銀二百五十萬兩正所有利息照英國  
年分算計每所借之海關銀一百兩每年加利息海關銀八  
兩五錢言明所借本銀按項還償每年次限每次限二十五萬  
兩每年外國十月初一日到限即英國一千八百七十八年十二  
月初一日歸還所有接次應付利銀限六個月一次係五月初一日  
一次十月初一日一次自英國一千八百七十八年十月初一日算起  
統限十年本利一併還清

第三條

一 歸還本利項得海關票據為保該票據即由上海漢口廣  
東三處海關發出按照合同內所連之式樣作為憑據由  
兩江總督 江蘇巡撫 江南海關道  
兩湖總督 湖北巡撫 漢口海關道  
兩廣總督 廣東巡撫 粵海關監督一律蓋

印以昭信守該三處稅務司即註明號數入冊一同畫押簽  
字仍須許道台奉到  
總理衙門此項札文以便知照各省官憲辦理

第四條

一 此項海關票據應可轉與倘票期限已到未能贖取以回  
中國應准執票之人抵納海關關稅

第五條

一 關票發出每張銀數至多五千兩至少一千兩

第六條

一 本利有関票作保中國應歸還執票之人無論在何  
時在承平時或和好之國人民或敵國之人一經執有所保  
此項本利関票中國應免強取硬討徵稅

第七條



一 該國票應係上海漢口廣東三處海關初次作抵關稅除  
前發票據作保借項之麗如銀行怡和洋行在滬給中國  
外即應首先歸還此次執票之人

第八條

一 該票據用印後履泰洋行即待向第一國銀行領照該票  
據銀數立時驗明收清

第九條

一 按照合同內發出關票以後如有遺失之事能給中國真實  
遺失之據並第一國立銀行能保拾着遺失之據不拘何人均  
作廢紙無用中國即飭發出新票以代遺失之據給第一  
國立銀行收執

第十條

一 第一國立銀行應交所借銀數詳後

一 海關銀四十萬兩 此項係付現銀

一 海關銀一百十萬兩 付日本好米

一 海關銀五萬兩 付日本寬永銅錢每足錢一千二百三十文  
作鷹洋一元核算

一 海關銀十萬兩 付各樣銀錢

一 海關銀十六萬兩 付銅一萬石丁銅每石二十四塊鑄形銅每石二十三塊

一 海關銀八約十萬兩 付煤炭在船上大塊即三池一萬八千噸每

噸洋四元又多人六千噸每噸四元二角五

分又唐津六千噸每噸四元今福六千噸

每噸三元二角五分

一 海關銀二萬三千兩 付麥子一萬石每石二百零十斤每石洋三元二角五分

一 海關銀五十六萬七千兩 付貿易銀或鷹洋隨便第一國立

銀行交付

惟是第一國立銀行不能交付專訂貨物全數按照第一

九條准以他項貨物抵交惟漢市上易於銷售之貨米不在內此等抵交之貨價應與不能交付之貨價值相同即由自己定照是日市價倘第一國之銀行不能以他貨抵交應照虧耗之數償錢

第十一條

議明該銀行照第十條交付日本寬永銅錢等貨數目多寡均無緊要姑擬先試辦給所定足數惟交米石數定不加增至所交之米言明每石二百三十斤價洋四元七角五分此項必須日本好米須中國在日本收取不能退還倘第一國之銀行准退方可繳還如未經依允則不能退也

第十二條

中國因此二百五十萬兩銀數必須將海關票據全行備就以便由上海交給該銀行收執在立此項合同同時限六箇月內該銀行亦須將借定銀數全行備就在此六箇月內或在所定之日交付或於所定之前幾日交付均可

第十三條

所有應付該銀行利銀當於交付所借本銀之日算起無論交付在日本交付滬

第十四條

該銀行所交之貨物等件言明該銀行應在日本東京橫濱四日市大阪兵庫下關長崎等口碼頭交付英商泰洋行

第十五條

第一國之銀行交付許道台或履泰洋行日本寬永銅錢米等項貨物價值日本圓銀或膺洋每百元照上海規銀七十六兩五錢核算又如前他項貨物此貨物價值兩面定照是日

市價行情

第十六條

一 第一國立銀行按照第十條應交中國所借銀數算海  
關銀一百兩即上海規銀一百十二兩四錢歸還借銀以  
海關票據取贖之時第一國立銀行其時應有選擇之權所  
還之銀如係上海規銀即照十五條所定銀價如還海關  
平銀兩成色須至少於銀天平係五百八十三粒九分一厘英國  
砵碼即係海關銀嗣後如因所交之銀成色不對即大阪鑄錢  
局試驗師等定斷如因銀色底折則中國必須償還補  
足

第十七條

一 如海關票係轉與及歸還所借本銀並所付利銀俱由  
上海辦理

第十八條

一 此項所立合同第十條內所說之日本寬永銅錢等貨該國  
立銀行在日本交付中國時應在此項所立合同畫押之  
後爾時任憑彼此照法辦理至中國所收貨物該銀行  
必須備就以便隨時在日本交付中國按照該貨所定價  
值數目總期海關票據互換倘其時該海關票據尚未備  
就則中國應照所定價值付該銀行該貨價值銀數或  
另給該銀行別樣保法但此等保法不過暫時取借一  
俟海關票交出即行回收

第十九條

一 須秤貨物應照日本平常規矩辦理  
若第一國立銀行交付貨物中國時嗣後於棧內尚有貨  
物中國總須給棧租等費至貨物全行取去之時

第二十條

一 按照第十條所定交付借銀互換時應與票據數目符合或給足數或幾分必須前幾日先將備就數目知照第一國立銀行

第二十一條

一 所有第十條內未曾言明貨物價值應照交付中國經手在日本或係通商之口或交付之日是日市價

第二十二條

一 交付貨物之後其貨物即責成中國並經第一國立銀行應承其貨物按照所立合同由日本出口免納日本平常關稅

第二十三條

一 按照第十條交付中國寬永銅錢第一國立銀行應在

上海交付其由日本至上海水脚保險等費並關稅如要即由中國照付

第二十四條

一 統計貨物應由三菱火船公司裝載倘該公司水脚比公司減省或與相等均應准其承運

第二十五條

一 如中國第一國立銀行交付貨物按照合同或因市價或為秤或貨物式樣如有不符爭論之事應請兩位公正人調處一為中國所派一為第一國立銀行所派倘此兩位公正人不對可請第三公正人代其調處前兩公正人所斷市價有無不符至議交之貨或已交貨物式樣如公正人等定斷實有虧耗則兩位公正人或第三之公正人應飭第一國立銀行再將虧耗情形辦妥倘第一國立銀行以

為該公正人定斷妥協則虧耗之事毋庸想其不照所立合同也

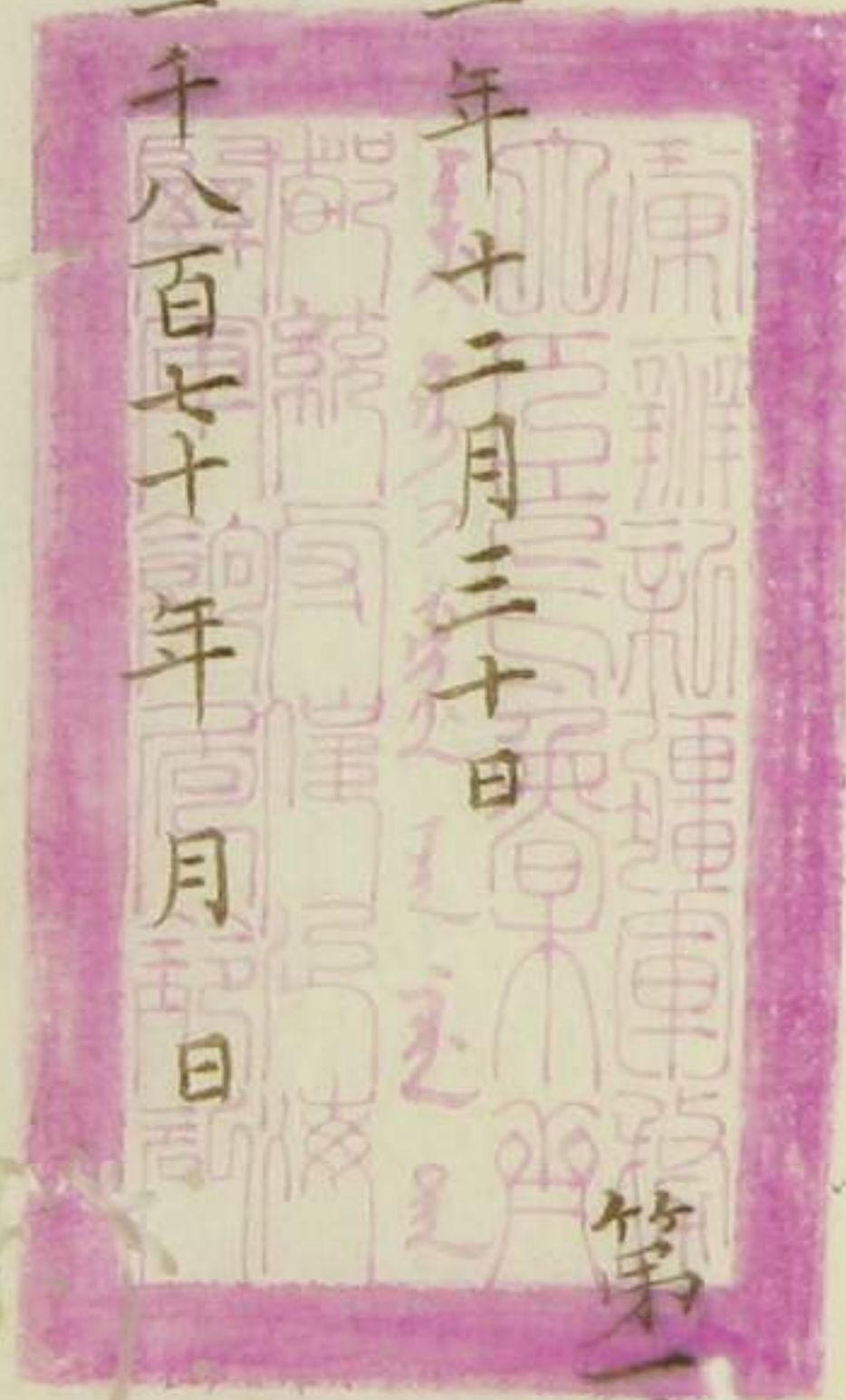
第二十六條

一 如中國自立合同之日限六箇月內不收所借之銀及不立第一國立銀行所保借閱票應償第一國立銀行海關銀十萬兩因為不遵此項所立合同如第一國立銀行不於六箇月內將借銀之事了結亦償中國海關銀十萬兩因為不遵此項所立合同

第二十七條

一 此項合同繕寫用漢文日本文英文配寫嗣後兩面如有情意不合各須遵照英文為正

光緒二十二年十二月三十日  
西曆一千八百七十年一月五日



第一國立銀行

澀澤榮一

益田孝



*Diid. Wares & Co  
Agents*

Translated according to the English  
original in Shanghai, the 12<sup>th</sup> February

1877 (seven)

Joseph Hockan

J. & R. Austro-Hungarian

Interpreter





東京

第一國六銀行



Agreement made and entered into this  
twelfth day of February 1877. 2<sup>nd</sup> year Kwangjuen. 12<sup>th</sup>  
moon 30<sup>th</sup> day, 10<sup>th</sup> Gueiji. 2<sup>nd</sup> month, 12<sup>th</sup> day between  
Hsieh Hsu-jin respectful Foutai of the province of  
Kwangjuen, in the Empire of China acting as  
agent and for and on behalf of His Excellency  
Kin Shim Imperial Minister Administrator of  
the War Department of Shingkeang, Holder of  
the brevet rank of the 1<sup>st</sup> degree Governor of Ministan  
in the Empire of China aforesaid on the one  
part and the First National Bank of Japan  
on the other part.

Whereas the said Hsieh Foutai has been  
authorized by decree of the said Kin Shim dated  
2<sup>nd</sup> year of Kwangjuen 2<sup>nd</sup> moon 1<sup>st</sup> day (8<sup>th</sup> March  
1876) to negotiate and settle in Shanghai a Loan  
of Hainkwan Taels Two Million five hundred  
thousand (2,500,000) on account of the Imperial  
Government of China and whereas an Agreement  
has been come to between the said parties,

Now these presents witness that the same  
is to be carried into effect in accordance with  
the following terms and conditions.

The British firm of Reid, Evans &  
& Co of Shanghai are appointed agents of the  
Imperial Chinese Government to carry into effect  
the provisions of this agreement.

The amount to be borrowed is  
Hainkwan Taels 2,500,000 and the interest to be paid  
thereon according to the English Calendar is for  
each year eight and one half ( $8\frac{1}{2}$ ) Hainkwan  
Tael upon every hundred Hainkwan Taels borrowed.  
The borrowed principal shall be repaid by annual  
instalments of Hainkwan Taels Two hundred and

大  
明  
一  
十  
一  
年  
四  
月  
十  
二  
日

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 1 2 3

fifty thousand (250,000) on the 1<sup>st</sup> day of November in each year commencing with the 1<sup>st</sup> day of November 1878 and ending on the 1<sup>st</sup> day of November 1887) and the interest ~~accruing~~ accruing due shall be paid half yearly that is to say on the 1<sup>st</sup> day of May and the 1<sup>st</sup> day of November in each year. The whole repayments to be made within ten (10) years from the 1<sup>st</sup> day of November 1878.

3. The repayment of the loan and interest shall be secured by Bonds to be issued by the Imperial Maritime Customs of Shanghai, Hankow and Canton in the form annexed to these presents which Bonds shall bear the seals of the Governor General of the Two Kiang provinces, the Governor of Kiangsu, the Superintendent of Customs Kiangnan (Shanghai) the Governor General of Two Hsi provinces, the Governor of Hubei, the Tontai of Hankow, the Governor General of Two Kwang provinces, the Governor of Kwangtung, the Superintendent of Customs (Happi) of Canton as evidence of the validity of said Bonds and they shall be duly countersigned or registered by the Foreign Commissioners of Customs at the 3 Ports and the said Hon Tontai shall procure from the Tsinghamen the necessary instructions to the said High officials on his behalf.

4. The said Customs Bonds shall be transferable and in the event of their not being redeemed at due dates they shall be accepted from the holders by the Chinese government in substitute for Customs duties.

5. No one Bond shall be given for a larger sum than Haikan Taels 5,000 or less than Taels 1,000.

6. The money (principal and interest)

secured by the said Customs Bonds shall be payable by the Chinese Government to the holders as well in time for war as of peace and whether the holders be subjects of a Friendly or a Hostile state and the Bonds and the principal money and interest thereby secured shall not be liable to signature seizure or sequestration or to any taxation whatever by the Chinese Government.

7. The said Customs Bonds shall be a first charge upon the Customs revenues of the ports of Shanghai, Hankow and Canton and the monies secured thereby shall be payable to the holders thereof in priority to all other claimants thereupon except the holders of Similar Bonds previously issued to secure loans made to the Chinese Government by the Oriental Bank Corporation and Messrs. Jardine Matheson & Co of Shanghai.

8. The said Reid, Evans & Co. will receive the said Bonds when completed and hand them over to the said National Bank in such order that the aggregate amounts will correspond to the sums borrowed up to that time from the said Bank.

9. Should any of the said Customs Bonds issued under this agreement be lost and satisfactory proof of the same be given to the said Chinese Government and a guarantee given by the said National Bank against any claim thereunder which might be made by the finder thereof the said Chinese Government shall cause

~~new Bonds to be issued to the said National Bank~~  
in lieu thereof.

10. The said National Bank shall make payment on account of the said loan

in the manner following, that is to say

|  |                               |           |         |
|--|-------------------------------|-----------|---------|
| In Silver  | Haikwan Taels                 | 400,000   |         |
| " Subsidiary Silver coin   | " "                           | 100,000   |         |
| " Copper Cash 1,230 per dollar                                     | about                         | 50,000    |         |
| " Rice 300,000 Koku  | do                            | 1,100,000 |         |
| " Copper tile @ \$24 = per picul                                   |                               |           |         |
| " " Pig " 23: " " 10,000 piculs                                    | do                            | 160,000   |         |
| " Coal (large) Miki 18,000 Tons @ \$4 per ton                      |                               |           |         |
| " " " Taka Karata 6,000 " " 4 <sup>25</sup> "                      | } delivered along with ships. |           |         |
| " " " Karata 6,000 " " 4 <sup>25</sup> "                           |                               | do        | 100,000 |
| " " " Imabiki 6,000 " " 3 <sup>25</sup> "                          |                               |           |         |
| Wheat 10,000 Koku of 210 catties @ \$3 <sup>25</sup> per Koku      | do                            | 23,000    |         |
| Japanese Trade dollar or Mex <sup>o</sup> dollar of option of Bank | do                            | 567,000   |         |
| Total Haikwan Taels  |                               | 2,500,000 |         |

11. It is understood that the said National Bank does not bind itself to deliver the exact amount of Japanese Copper Cash, and produce specified in the preceding clause. It will endeavor to adhere as strictly as possible to the amounts specified and will not under any circumstances deliver more than the specified quantity of rice, but should it be unable to deliver the exact quantity of any special kind of produce specified in the preceding clause it shall be at liberty to deliver in lieu thereof any other marketable produce (except rice) of a like value to be calculated at the market rate of the day and should it not do so it shall make up the deficiency by money payment. Every Koku of the said Rice is to be equal in weight to 230 catties the price of the rice being settled at \$4<sup>25</sup> per Koku in Japanese bags. The rice shall be of good average quality of Japan rice. It must be brought away from Japan by the Chinese Government and not sent back there unless with the permission of the

said National Bank.

12. The said Chinese Government undertakes that the said Customs Bonds for the said sum of Haikwan Taels 2,500,000 shall be completed and ready for delivery to the said Bank in Shanghai within six months from the date of this agreement and the said National Bank undertakes to complete the said Loan within the same period.

13. Interest shall be due and payable to the said National Bank upon all payments or deliveries made on account of the said loan from the dates when the same are made (whether delivery be made in Shanghai or Japan).

14. All deliveries of produce shall be made by the said National Bank to the agent of the said Chinese Government at the godowns of the Bank at the Ports of Tokio, Yokohama, Yokosuka, Osaka, Hiogo, Simonsaki or Nagasaki.

15. The price of Copper Cash and produce is to be fixed in yen or dollars and yen or dollars are to be calculated at the fixed exchange of Shanghai Taels 76<sup>20</sup>/<sub>100</sub> per 100 Japanese Yen or Mexican dollars.

16. In calculating the payments to be made by the said National Bank to the said Chinese Government under clause 10 of this agreement one hundred Haikwan Taels will be calculated as equal to Taels 111<sup>20</sup>/<sub>100</sub> Shanghai Sycee. On repayment of the loan or upon redemption of the Customs Bonds the said National Bank shall have the option of being repaid either in Shanghai Taels at the rates mentioned in the preceding clause or in Haikwan Taels of a standard of not less than 99.8 fineness and grains 583<sup>91</sup>/<sub>100</sub> Troy weight English

and in the event of dispute as to the fineness of the silver the same is to be left to the decision of the assay officers of the Osaka Mint and any difference of fineness made good by the Chinese Government -

17. Transfer of the said Customs Bonds and the repayment of the principal borrowed and interest from time to time due thereon is to be made in Shanghai.

18. The Copper Cash and produce mentioned in the 10th clause of this agreement shall be delivered by the said National Bank to the said Chinese Government as soon after the signing of this agreement as conveniently may be, and the said Chinese Government shall take such delivery when it shall be duly offered to the said Chinese Government or its agents in Japan by the said National Bank and give the said Customs Bonds or for their equivalent in value in exchange or if such Customs Bonds shall not be ready then the said Chinese Government shall pay the said goods at the agreed rates or give to the said National Bank such first class security as the said National Bank may be willing to accept which cash or temporary security shall be exchanged for the said Customs Bonds when ready.

19. The weighing of all produce shall be made as is customary in Japan. If any produce be left in godowns after delivery by the said National Bank to the said Chinese Government the said Chinese Government shall pay godown rent and charges in respect of the same until they have removed it.

20. The specie payments mentioned in clause 10 shall only be made in exchange for the

said Customs Bonds but will be made <sup>wholly</sup> ~~in~~ <sup>or in part</sup> exchange so soon as the Customs Bonds representing their equivalent wholly or in part shall be ready for delivery and reasonable notice thereof given to the said National Bank:

21. Should any other articles of produce which are not specially mentioned and valued under clause 10 of this agreement be delivered by the said National Bank such articles shall be valued at the market rate of the day on which they are delivered to the Chinese representative at the open port or ports of delivery in Japan.

22. On delivery of produce all risk and responsibility rest with the Chinese Government. The said National Bank undertakes that all produce exported from Japan under this agreement shall be freed from duties or usages levied by the Japanese Government.

23. The Copper Cash subsidiary silver coin to be delivered to the said Chinese Government under clause 10 of this agreement shall be delivered by the said National Bank in Shanghai. Freight and Insurance upon the same from Japan to Shanghai and import duties (if any) shall be provided by the Chinese Government.

24. All produce shall be shipped & conveyed to China by the Nippon Yusen Kaisha Company or are not in excess of those at which other Companies will carry cargo.

25. Should any dispute or difference arise between the Chinese Government or the said National Bank in regard to the market value weight or quality of any of the produce to be delivered by the said National Bank to the Chinese

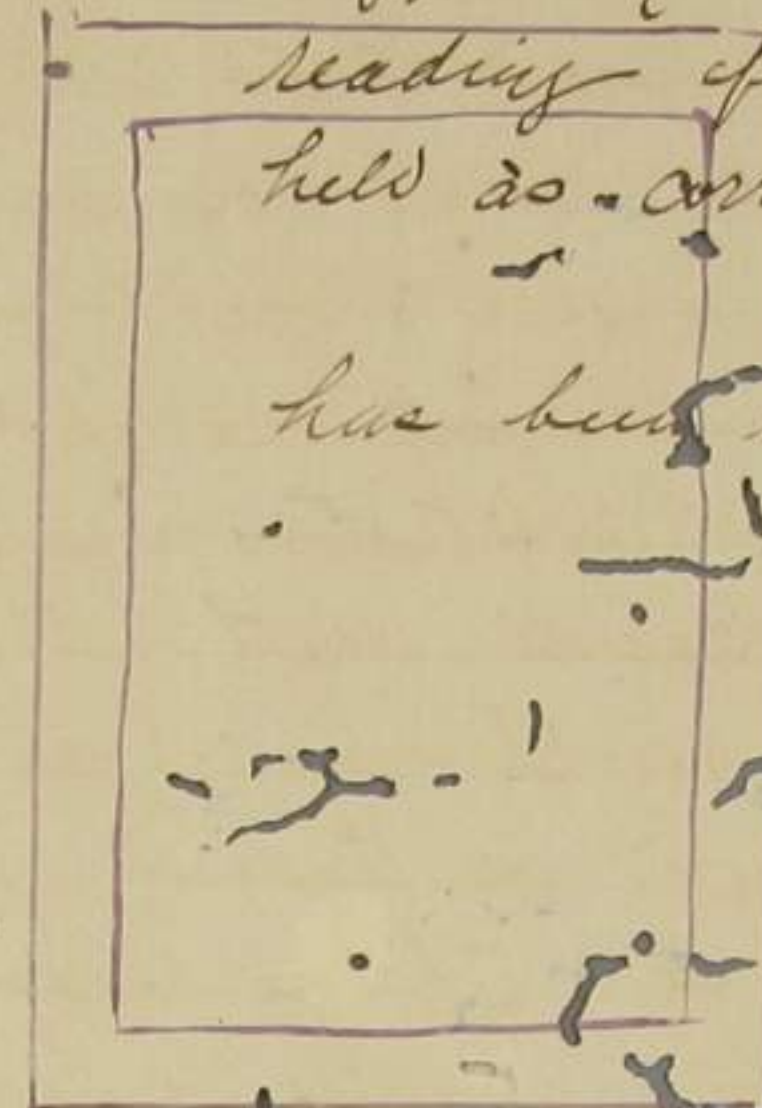
freight charged by the Nippon Yusen Kaisha Company

government under this agreement ~~in the said~~ such disputes or differences shall be referred to the decision of two arbitrators (with liberty to them in case they should disagree to appoint an umpire) one to be appointed by the Chinese government and one by the said National Bank which said arbitrators or umpire shall have power to and shall decide whether there is or has been any deficiency of weight, market value or quality in the produce delivered or tendered in delivery by the said Bank to the said Chinese government and in the event of their or their umpire deciding that there has been or is any such deficiency the said arbitrators or their umpire shall decide and direct how and in what manner such deficiency shall be made good by the said Bank and if the said Bank shall duly comply with the decision & direction of the said arbitrators or umpire such deficiency shall not be considered any default within the meaning of this agreement.

26 If the said Chinese government shall not within six months from the date of this agreement receive the said Loan and hand over the said Customs Bonds to the said National Bank as security therefore the said Chinese government shall pay to the said National Bank the sum of Haidwan Taels one hundred thousand (100,000) as liquidated damages for the breach of this agreement, and in the event should the said Bank not complete the said Loan within the said six months it shall pay to the Chinese government the sum of Haidwan Taels one hundred thousand (100,000) as and for liquidated damages for its breach of agreement.

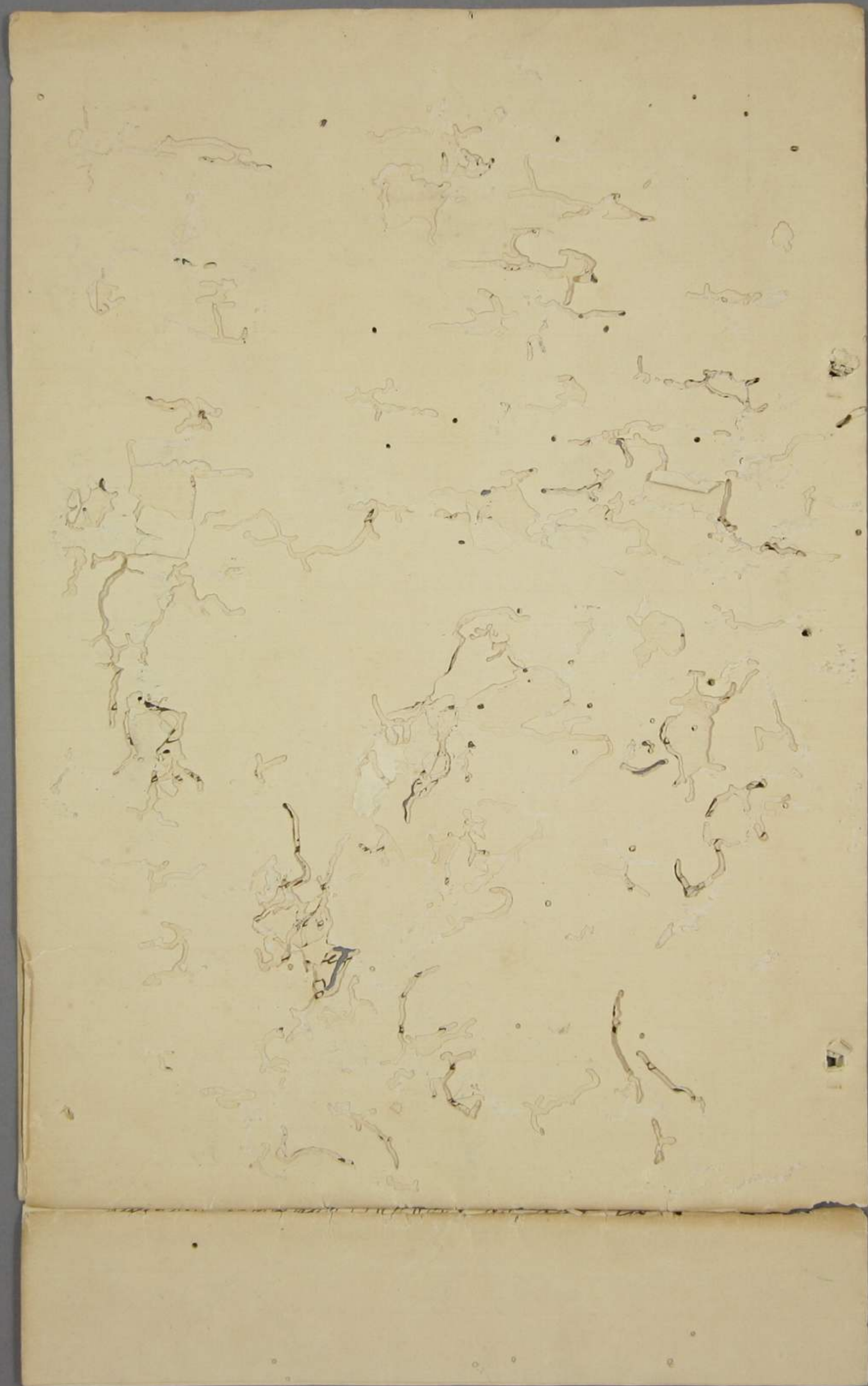
27 This agreement shall be drawn out in Chinese, Japanese, and English and should any

difficulty or misunderstanding arise the reading of the English agreement alone is to be held as correct and binding on all concerned. In witness whereof this agreement has been signed and sealed -



第 一 國 立 銀 行  
 田 澤 爲 二  
 印 印

Red. Evans & Co.  
 agent



東京

第一國五銀行

関西  
譯









Blank lined area for text on the right page.

三

此種札以借銀之為西洋秤如用之則其洋商之  
海關稅之定其為何等之海關稅之  
收銀之定其為何等之海關稅之

此票借銀係洋秤如抵洋商海關  
完餉應照國秤申補紋水特此註明

東京

第一國立銀行

大清光緒十一年四月

# 粵海關票

憑票發關平關餉銀壹萬兩正如到期不還准

將此票抵完本關關稅

此票係借洋銀用洋平如抵洋商  
納餉應照時價補完致水並應照  
關平補平銀特此註明

鄭興隆  
陳合盛  
高恒茂  
王福昌  
秦永合

號照給

光緒十一年冬月拾肆日

Translation of Note: - The silver borrowed on this bond is foreign silver (i.e. Silver of the purity of Mexican Dollars) weighed on the foreign scale (i.e. at 7.17 per dollar). If tendered in payment of duties by a foreign merchant the holder must pay in addition the premium at the rate of the day, required to bring the amount of the bond, both as regards quality and weight, up to Hankow.

Government Loan of 1875 for H.K.  
\$2,000,000  
Custom Quotations K.T. 15,000,000  
Bond No. 82 H.K. No. 10,000  
Registered J.E. Wight  
Commissioner of Customs  
officiating as registrar without recourse  
June 11 1875

此項議在上海依期歸付距粵較遠每  
次請先期貳拾天預撥解滬以免遲誤

粵海關字第一〇〇貳號



# 江 海 關 票

憑票發關平關餉銀壹萬兩正如到期不還准

將此票抵完本關關稅

官銀號照給

洋行歸款此憑

官票式樣

光緒叁年叁月拾肆日

Government Loan No. 1 of  
1875 for \$2,000,000.  
Shanghai quota \$1,000,000.  
Note No. 82 for \$10,000.  
Registered  
Signed J. C. B. Glover  
Commissioner  
Custom as register  
without recourse  
office of Custom  
Shanghai 11 May 1875

(Seal)  
Commissioner  
of Maritime Custom

此項議在上海依期歸付每次應  
請先期拾天預撥解交以免遲誤

工每局字第列合式號

上海英界第一號合法券

光緒二十九年冬月拾肆日

票關海

官票大數

拾銀萬兩

為本關應辦

海關稅項

洋行謹啟

Copy of Bond required to be returned

此係票式  
不作正用

Printed and Published by  
R. G. S. & Co. Agents

Commissioner of Customs  
Shanghai  
Office of Customs  
Shanghai  
Customs as Officer  
Superintendent  
Reports  
Total paid for 10,000  
100,000  
Shanghai Opium  
100,000  
100,000  
Government Loan No. 1 of

此券係由上海英界第一號合法券  
光緒二十九年冬月拾肆日

東京

第一国立銀行

札  
飭  
譯



天  
五  
十  
一  
年  
四  
月  
贈

欽差幫辦新疆軍務大臣頭品頂戴烏魯木齊都統  
 前定邊左將軍圖爾格齊巴圖魯魯金  
 飛札ヲ以テ飭令候ハ本大臣都統ニ新疆軍務現今  
 段ニシテ軍用金切迫ニ及候間先達テ西征糧台總理駐  
 陝軍需總局陝安道沈道台ハ書翰ヲ以テ取計方委  
 托致シ夫ヨリ陝甘後路糧台胡光墉道台ハ轉達シテ  
 各港殷富ノ洋商ヨリ利付ニテ一百万兩借入夫ニ手數  
 致シ營中ハ送り急迫ヲ凌キ可申旨縣心合置今度特  
 派出ル按察使銜安徽候補道方雲灝ハ前ニ廣東ニ  
 赴キ奧海關催餉局務ヲ按辦スル許厚如道台ト共ニ上海  
 行キ胡道台ニ面會ノ上各洋商ト程能借入金員數等  
 談判相調ヘ早ニ手數ノ上陝西催餉轉運局ハ為換ヲ  
 取組其局ヨリ王守得錄等ノ員ヲ派出運送ニ急用相



辨候様可致段相違候條該局に於て右達届ヶ次  
第早に取計可申猶取計振並に運送致候哉否ヲ  
各港ヨリ前以飛札ヲ以テ早に申立此段相違有間敷候  
事

光緒二年二月十三日

札  
飭  
寫

大  
慶  
正  
候  
十  
一  
年  
奇  
口  
月

東京

為  
一  
國  
之  
長  
子





餉緊迫曾函托

幫辦西征糧台總理駐陝軍需總局陝安道沈道  
轉請陝甘後路糧台胡道光墉在於各口殷實洋商  
加息借銀百萬兩設法解營以應急需等因在案茲  
特派按察使銜安徽候補道方雲藻前赴廣東接  
辦粵海關催餉局務許道厚如於方道<sup>到</sup>滬後會  
同面商胡道向各洋商妥為商借一有定數即行設  
法滙至陝西催餉轉運局由局員王守得祿等派員  
解營俾顧要需除分行外合就札飭札到該局即便  
遵照趕速辦理仍將遵辦情形並曾否起解各日期先行  
隨時飛稟報查毋違切此札

I hereby certify that this is a true  
original document.

Shanghai, 12<sup>th</sup> February 1899 (seven)

二月十三日



copy of the

Joseph Macartney  
British Consular  
Shanghai



何福蔭此日ヨリ向六週日ノ中ニ於テ海關テール  
貳萬兩ヲ拂フテ約シタルヲ以テ余等右金額  
受納スルニ於テ之ヲ約定中ニ記載シタル償金海  
關テール拾萬兩ノ全部ノ抵當トシテ預リ置ク可シ

一千八百七十七年二月廿日

於上海

リード・イバンス高會

代理

澁澤君

益田君

岩崎君

大正十一年四月  
隈正侯爵郵寄贈

東京

第一回ニ及行



Shanghai, 14<sup>th</sup> February 1877

To Messrs. Shibusawa, Maeda, & Iwasaki,

Gent:

As Ichi Ku having agreed to pay the sum of Kaikau Tails twenty thousand within six weeks from date hereof, we will on receipt hereof hold the said amount as path security against the Kaikau Tails 100,000 penalty as contained in agreement;

We are, Gent:

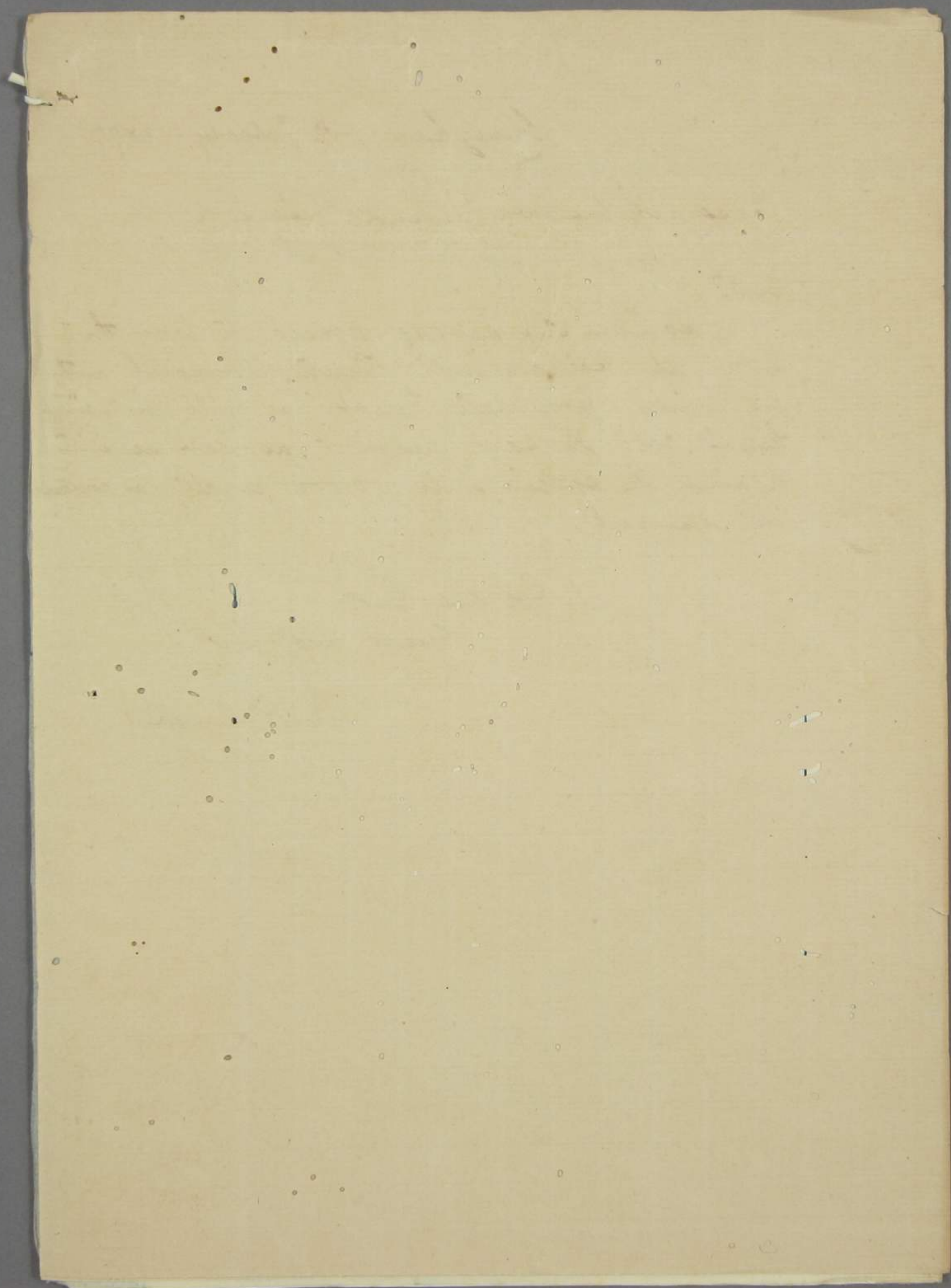
Yours obed. Serv<sup>ts</sup>

Reid & Co  
agents

大清光緒三年四月  
贈

東京

第一國立銀行





許道台令般ノ公債ニ附シテ生シタル銀行ノ出費  
ヲ償フ為メニ公債証書ノ全備スルニ至テ海關  
ノ右公債証書ノ全備スルニ至テ右金額ヲ收メテ貴君  
等ニ交付スルヲ約ス

一千八百七十七年二月十四日

於上海

リード・イバンス高會

代理

澀澤君  
益田君  
岩崎君

大  
限  
五  
十  
一  
月  
四  
日  
贈

東京

第一國貨銀行



Shanghai 14<sup>th</sup> February 1877

To

Messrs. Mitsuzawa, Maeda, & Inasaki.

Sir,

Hei Saotai having agreed to pay to you on completion of Bond the sum of Hai Kan Tails Ten thousand to repay the Bank's expense connected with the Loan, we hereby undertake on completion of said Bonds to collect the said amount and pay it over to you -

We are Gentlemen!

Your obedient servants

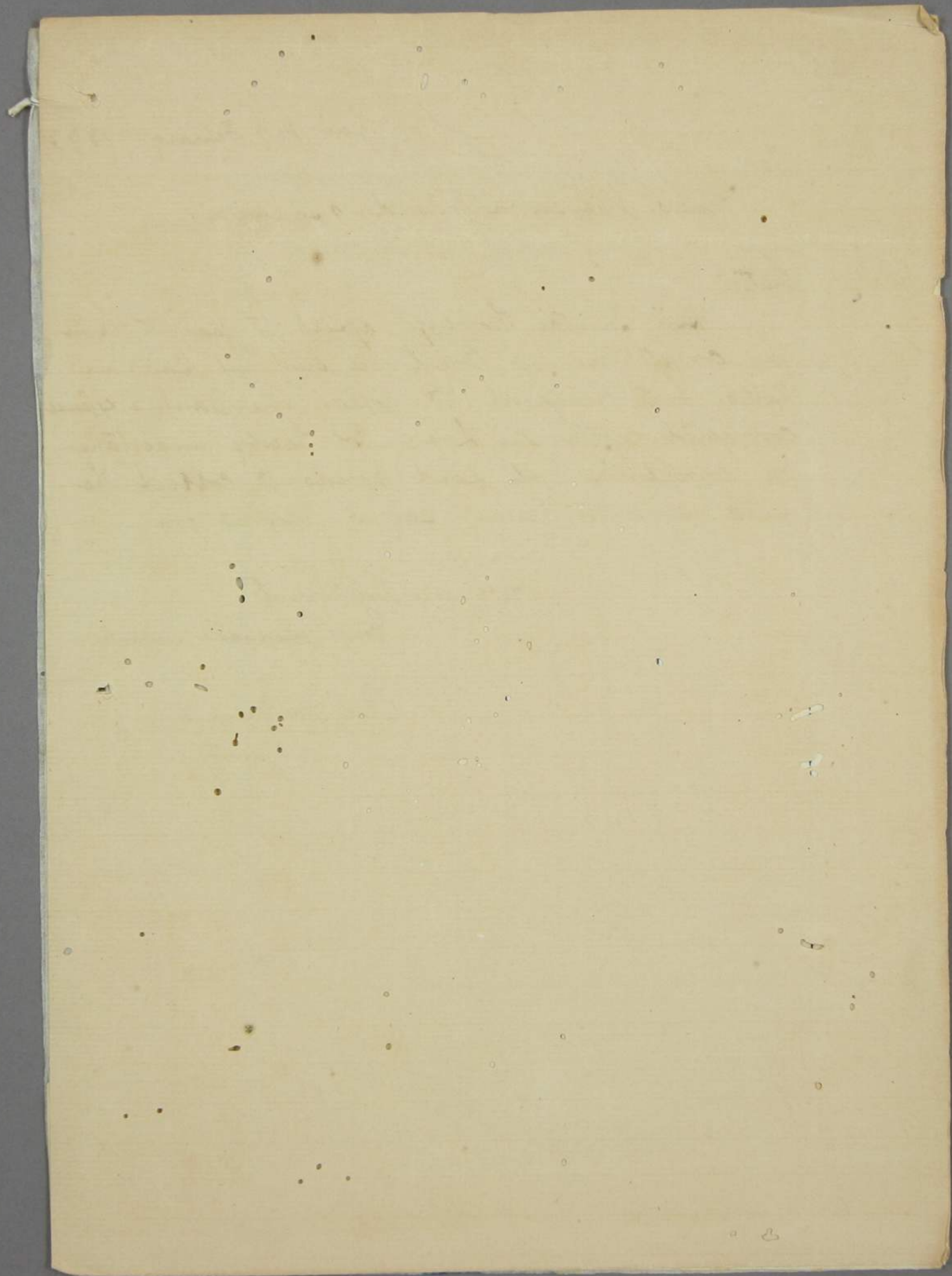
Rice, Evans & Co.

Agents  
of

大  
銀  
一  
千  
兩  
四  
月  
贈

東京

第一國金行



貸付金控高ノ海関收税表系他方ノ控高トナリ  
タル額トシテ引計スル書

西曆千八百九十七年九月八日  
七十九年正月十七日同半納高

一金貳百九拾貳万四千〇八兩六錢八

同 上海海関税

一金九拾万二千八百七拾五兩三三錢

同 廣東海関税

一金百四拾万二千三百七拾八兩五錢

同 漢口海関税

金百拾万二千五百七拾七兩六錢七

与海海関税ノ内シマレシマレナク  
社中及オリエシタルバンクハ概当分  
但シテ年分抑度ハ概シテ年分

金百拾万二千五百七拾七兩六錢七

同 廣東海関税ノ内

差引 残

東京

第一國立銀行

大正十六年四月  
大藏省郵寄贈



今取百五拾五万七千三百四十五兩九五毫

上海、関税

今西ノ便共左ノ計ニシテ概カトシテ

今取拾五万七千九百〇八兩六六四

白 廣東海関税

今百四拾五万三千二百七拾八兩五毫壹

漢口海関税

三ヶ合

今三百八拾九万七千九百九拾九兩五毫六

清國十五港海關稅統計表

| 地名 | 千八百六十七年    | 千八百六十八年    | 千八百六十九年    | 千八百七十年     | 千八百七十一年     | 千八百七十二年     | 千八百七十三年     | 千八百七十四年     | 千八百七十五年     | 千八百七十六年     | 總計 | 八十年平均高 |
|----|------------|------------|------------|------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|----|--------|
| 上海 | 2311287733 | 2515538448 | 2664904206 | 2730958697 | 3211202240  | 3250871040  | 3340216660  | 3344495320  | 23392068943 | 2924008612  |    |        |
| 寧波 | 452603220  | 559216661  | 623212525  | 684009608  | 745315530   | 769923300   | 732403740   | 672766760   | 5300041944  | 662505243   |    |        |
| 福州 | 1712429974 | 1219100377 | 1776303372 | 1490724920 | 1658530460  | 1286272970  | 1978112320  | 1714202400  | 14035676003 | 1754459600  |    |        |
| 廈門 | 503327251  | 426044722  | 555747112  | 496675022  | 499790230   | 582241110   | 590524910   | 523377733   | 4172329312  | 522272664   |    |        |
| 汕頭 | 421863145  | 291424922  | 351509293  | 293024477  | 582412210   | 664113030   | 744769200   | 869539305   | 4216679242  | 527084905   |    |        |
| 廣東 | 275496254  | 261242221  | 269952532  | 22206110   | 939574020   | 914552040   | 991007010   | 952069600   | 7201002647  | 922875331   |    |        |
| 漢口 | 824115340  | 125145224  | 1377531419 | 1276425980 | 1422416200  | 1417769060  | 1605426460  | 2025452404  | 11227022027 | 1403378511  |    |        |
| 九江 | 418937956  | 534072268  | 494212306  | 468431052  | 597116360   | 667415960   | 663922640   | 771946427   | 4619120975  | 577390122   |    |        |
| 鎮江 | 24254467   | 32633765   | 55957712   | 73512297   | 143322340   | 145086520   | 153036900   | 152224651   | 792634652   | 99079332    |    |        |
| 芝罘 | 212325309  | 224363216  | 212203461  | 306322104  | 275515290   | 313039360   | 304036550   | 204265710   | 2093732600  | 261716575   |    |        |
| 天津 | 522699506  | 134312207  | 267566625  | 39906569   | 340047050   | 371307260   | 313074140   | 297311227   | 2650319594  | 331289223   |    |        |
| 牛莊 | 250000     | 213613656  | 260921196  | 262415134  | 201445290   | 192751580   | 239466940   | 226039040   | 1822702236  | 227234255   |    |        |
| 臺灣 | 62470476   | 51426758   | 77397013   | 112522441  | 92630240    | 139113220   | 114021430   | 193430427   | 255076703   | 106884522   |    |        |
| 淡水 | 99037149   | 69042050   | 74107593   | 66444222   | 124576430   | 126340530   | 152909410   | 196829040   | 912593022   | 114074136   |    |        |
| 瓊州 |            |            |            |            |             |             |             | 47973120    | 47973120    | 47973120    |    |        |
| 總計 | 2685442927 | 9044212779 | 9419129265 | 9452666321 | 10268396290 | 11441391520 | 11932109110 | 12192519164 | 23375039536 | 10463356423 |    |        |

表中全類都清國海關兩方以計算

但千八百七十一年稅額稍細，較得之



貸附金約定書中ニ確定ス海関ターニ品位是目

計算比較

約定書第拾六條中ニ清國政府ヨリ借入金ヲ返償シ或ハ  
海関証券ヲ拂戻ス時ニ第一國主銀行ハ上海ターニ  
前條記載ス可ノ相場ヲ以テ受取ルカ或ハ海関ターニ  
九百九拾八ノ元位ヲ少クサルン品位且ツ英量五百八拾  
ニクレイトロイ九ニ一ノ金量ヲ以テ受取ルノ自由ヲ有スベシ  
之ト確定セシメタル其比較ヲ以テ例ニ家初貸附  
シ我貿易銀五百圓ヲ清國ノ銀院即チ改銀ヲ以テ  
文收シ之ヲ造幣局ニ送致シテ再ニ貿易銀ニ改鑄シ  
其運賃利足及鑄造費等ヲ除キ去リテ何等ノ成  
果ヲ得ンヤリ按算スルニ其割有ハ右ノ如シ

一英量五萬八千三百九拾ニクレイトロイ

海関ターニ等百ヲル 對當

東京

第一國主銀行

大正十一年四月  
大隈侯爵寄贈



星目

但品位九九八

右上海テんを百兩ニ除セハ

一英星五萬銀千四百枚五カレイトロイ六 上海テんを百テんノ

對等星目

但海關テんを百兩ニ除

テんを百枚を四四割

留位前同新

又右ノ我貿易銀を百四ニ除セハ

一英星四万〇〇九枚七カレイトロイ九之 貿易銀を百四對

當品目

但貿易銀を百四ニ除テん

七千二テん半ノ別

品位前同新

此紙銀四万〇〇枚七カレイトロイ七之

此造幣局星四萬四千四百六枚四カレイトロイ七之四

此貿易銀を百五回ハ換六銖七厘

内

金を同五換八來ハ厘

金五換八來ハ厘

金五換八來ハ厘

金を同五換八來ハ厘

金を同五換八來ハ厘

金を同五換八來ハ厘

小計金三回ハ換八來ハ厘

星引 残

金百枚四〇五銖六厘

鑄造費百分五

檢驗分拆費百分五

運賃海上海金料

千分五ト見込

利息二分ト見込

百分五



右ノ割合ヲ以テ之ヲ原價ニ比較スルニ其増加左ノ如シ  
金銀同〇五兩ノ割合也

此割合ヲ以テ海關ニシテ百五兩銀兩ノ銀塊ヲ我貨幣  
ニ改鑄スルハ

即貿易銀三百八兩五兩四百九兩五兩ニ重トナシ

内

金七兩四兩七兩四百九兩五兩

前同新諸入費百兩ニ上

其別録

金二百七兩五兩五兩二百六兩六兩五兩

右内ノ海關ニシテ銀百五兩銀兩ノ元價ヲ以テ左ノ  
如シ

金三百六兩四兩五兩四兩七兩七兩六兩

其別録

金七兩四兩四兩四兩九兩三兩九兩

元價ヲ増加

右ノ割合ニ確定シ先手續ハ當初商人ノ上海ニ到着シ  
清國政府ノ代理人リイデイガエリス商會ノマシニ氏トモ  
附金ノ談判ヲ始ムル。當リテ先ツ其通商ノ時ニ上海ニ  
相場ヲ以テ之ヲ決定マシテ於テハ清國政府ハ紋銀ヲ以  
テ通商ノ爲メヤ然レトキハ其品位量目ハ何等ノ制定ニ  
ヤ之ヲ此件ノ眼目トスルニ決着スルハ本年各ヲ以テセシ  
マシメテ教テ清國紋銀ノ品位量目ヲ通知セシハ其  
外國銀行ニ就テ實況ヲ詳悉シ相當ノ定限ヲ協議ス  
ルハ一ツラ多クムリ



此貿易銀百兩計換五兩九厘ノ成貨ヲ得ん  
右ノ算則ノ以テ上海テ一ノ及海關テ一ノ各百兩ニ較量セハ  
上海テ一ノ百兩ハ

此貿易銀百兩計換五兩九厘ノ成貨ヲ得ん

此純銀百兩計換五兩九厘ノ成貨ヲ得ん

此送幣銀百兩計換五兩九厘ノ成貨ヲ得ん

此貿易銀百兩計換五兩九厘ノ成貨ヲ得ん

又海關テ一ノ百兩ハ

此貿易銀百兩計換五兩九厘ノ成貨ヲ得ん

此純銀百兩計換五兩九厘ノ成貨ヲ得ん

此送幣銀百兩計換五兩九厘ノ成貨ヲ得ん

此貿易銀百兩計換五兩九厘ノ成貨ヲ得ん

乙 又廣東テ一ノ百兩ハ

其ハニ相當ニ且其廣東テ一ノ百兩ハ英量五百七拾九  
カレイトロイ八四アノトシテ上海テ一ノ七拾六兩ノ較量ヲ算ス  
スレ

一 廣東テ一ノ百兩ハ

此貿易銀百兩計換五兩九厘ノ成貨ヲ得ん

此純銀百兩計換五兩九厘ノ成貨ヲ得ん

此送幣銀百兩計換五兩九厘ノ成貨ヲ得ん

此貿易銀百兩計換五兩九厘ノ成貨ヲ得ん

右ノ割有テ廣東テ一ノ百兩ハ

此貿易銀百兩計換五兩九厘ノ成貨ヲ得ん

此純銀百兩計換五兩九厘ノ成貨ヲ得ん

此送幣銀百兩計換五兩九厘ノ成貨ヲ得ん

此貿易銀百兩計換五兩九厘ノ成貨ヲ得ん

右甲乙ノ權算ヲ為シテ後其貨物金ヲ返濟スルハ銀  
 塊ヲ以テセシ其計算ハ此甲ノ定量目位ニ見ヘキヲ約定  
 書ニ明記セシトマシテ此若クテ之ヲ清國人ノ協議セシ時  
 ニマシラレモ亦甲ノ計算ト因シテ上海テハ其百テールノ  
 清國定目ト及其其クテハ對シテ其量ヲ調査シ東  
 リテ我ノ支ニ只其上海テハ其百テールノ銀塊ヲ  
 テ九枚試テールノ銀塊ニ付其量法ニテマシラレ  
 其テールノ銀塊ヲ其年出セル五百八枚試テールノ  
 銀塊ノ計算法ト其銀子千分ノ九四ヲ減シ依テ相協議シテ之  
 ヲ折衷シテ此貨人並返濟ノ中ニ用ニ其算別ト為スヘキ  
 一ヲ決シテ始テ約定書檢査條ニ明記スル事トナリ先ナ  
 リ

約定書中ニ明記ス海關ラハ其位重量ハ其算別則

前ノ手續ニヨリテ確定セシト自當其貨物金返收ノ際  
 彼ノ銀塊ヲ以テスル之ヲ我貿易銀ニ改鑄シテ幾分ノ  
 増加ヲ見ルニ至ルト種々現今上海ノ於テ通常ノ銀行ノ自  
 彼ノ收銀ヲ交收シ之ヲ我貿易銀ニ改鑄セル程令其  
 交換ノ相場貿易銀百圓ニ付上海規銀七枚ニ半ナラモ  
 決テ此約定書中ニ明記シタル割合ニ適セズ是蓋約  
 定書中ニ明記シタル算別ハ上海規銀純量ノ算算ハ  
 申シテ我ノ於テ當其利量見計計算ヲ以テ定ムルヲ以テナリ  
 況テ通常ノ銀行ノ於テハ其交換相場ノ如キモ多クハ七枚ニ  
 半ノ低價ヲ得ルハ難クシテ其交換ハ洋銀ノ媒介  
 ニヨリテ得ルハ洋銀相場ノ昂低ニヨリテモ多少ノ減差  
 ナキ故ハ又故ニ最モ其上海ノ於テ各種ノ收銀ヲ購取シテ  
 之ヲ試驗分析セシ計算ト及此其二塊ヲ携一歸



此上海ラール五指五ラール五メース六  
七十計ラール三メース、割  
 貿易銀七指六四八指錢五厘八毛  
七十計ラール三メース、割  
 貿易銀七指六四八指錢五厘八毛

第四号

清國量目五百指三及七ト  
割増三十及

此他銀四百九十四及七ト五厘五六  
 此造幣重五百四十五及七ト五〇七  
 此貿易銀七指五四指五九厘  
 方寶銀

此上海ラール五指五ラール五メース三〇六  
七十計ラール三メース、割  
 貿易銀七指六四八指錢五厘八毛  
七十計ラール三メース、割  
 貿易銀七指六四八指錢五厘八毛

第五号

清國量目二百三及六ト  
割増九及

日本量目五百目五ト五厘  
此他銀四百九十及七。是。是也  
 此造幣重五百四十五及五ト六六八  
 此貿易銀七指五四指三指錢五厘  
 小元寶銀

此上海ラール三指三及六ト  
七十計ラール三メース、割  
 貿易銀三指四三指五七厘  
七十計ラール三メース、割  
 貿易銀三指四三指五七厘

日本量目百九指六及五ト七厘  
此他銀百九十四及六ト。四三  
 此造幣重九百指六及七ト七  
 此貿易銀七指九四八十四及五厘

第六号

清國量目九指九及九ト  
割増九及九ト

京餉銀

日本量目八十九及六ト七厘

此上海ラール九ラール七メース五  
七十計ラール三メース、割  
 貿易銀三指四三指五七厘  
七十計ラール三メース、割  
 貿易銀三指四三指五七厘

第七号

清國量目四百九十九及六ト  
割増七十七及

此造幣重九十六及七ト四三九  
 此貿易銀七指三四三指五厘  
 元寶銀

此上海ラール五十三ラール七三四六  
七十計ラール三メース、割  
 貿易銀七十四四三指五七厘  
七十計ラール三メース、割  
 貿易銀七十四四三指五七厘

第八号

清國量目四百九十八及八ト  
割増七十七及

此上海ラール五十三ラール六メース五三

日本量目四百八十五及七ト  
此他銀四百七十五及五ト。〇三  
 此貿易銀七十四九十六及五厘  
 元寶銀



東京

第一國金



九州地方：博野、糸、唱、ノ、一種、糸、マ、リ、又、製、法、全  
 ノ、字、法、ト、云、リ、形、容、恰、モ、豆、粒、ノ、如、ク、四、九、ニ、往  
 昔、又、野、人、ヨ、リ、傳、習、ス、ル、製、法、ト、云、レ、云  
 海、外、通、商、開、ケ、ル、以、来、四、藩、制、ノ、廢、止、ノ、製、法、ト、  
 改、メ、字、ノ、法、製、シ、放、ハ、レ、シ、ト、屢、論、達、ス、レ、氏、國、西、ノ、土、佐  
 改、進、ノ、名、ナ、リ、禎、年、ト、シ、テ、四、法、ヲ、墨、齊、シ、テ、靴、也、各  
 地、ノ、製、糸、盛、ニ、輸、出、シ、去、リ、モ、博、野、糸、ハ、依、然、支  
 那、法、ヲ、以、テ、製、出、ス、ル、ニ、因、テ、需、用、サ、リ、唯、長、年、  
 港、ヨ、リ、歐、州、ニ、向、ケ、輸、出、ス、ル、モ、其、價、僅、ニ、四、五、弗  
 ノ、上、ニ、出、ス、ル、ニ、昨、年、野、ノ、傳、聞、ス、ル、所、ヲ、以、テ、  
 該、糸、ヲ、上、海、ニ、轉、送、シ、販、賣、セ、ル、ル、ニ、却、ラ、テ、五、弗、  
 ノ、價、ヲ、得、タ、リ、而、シ、テ、歐、州、人、モ、支、那、人、モ、競、テ、之

東京

第一回

大正十一年四月  
 大隈侯爵郵寄贈





要ハ成方ノ感ノ利クモエホ後ヲ多クカレトハ西氏  
 ノ言ニ因テ嬉野ノ案ノ大ニ用ニキマルヲ諷リ借ラタ  
 畧量ナルニ嬉野ノ案ニシテ支所ノ案トモテラレハカ  
 一四ノ案ハ此同質ナラリルヲ信スルノ意ハ後ノ同  
 レカラアルヲ以テ其勢多ク変スルノミ何ヲ嬉野ノ區ニ限ルヘケ  
 ヤ先ツ暫ク西氏ノ言ヲ所ニ從ヒテ支那華内ノ兩名在  
 雇ト今年ノ新案ヲ以テ彼ノ言ヲ所ヲ行ハレノ案地ノ適  
 否ヲ試験シ且ツ彼等上海ノ形ヲ再製スル所ヲモ亦人ヲ撰テ  
 派遣シ之ヲ傳者セシメ遂ニ全然我ニ占ラシ内地ニ於テ之ヲ  
 精製シ直チニ歐州ノ需用ニ供スルヲ得ハ一公益ヲ振起スル必  
 然ナルニ依テ本年ノ新案ニ先チ支那華内ノ兩名ヲ雇入レ  
 一ヲ何氏ニ約セリ

再案ノ為メ上海ニ送ルノ一考ハ頗ル迂闊ニ似タレモ支那海關

ニテハ一旦輸入セル外國品再々他へ輸出スルハ輸入税銀ヲ  
 還所スル故へ前述ノ如クスルモ故チ費用ノ失費ヲ要セサル  
 ナリ

古ハ上海ニ滞立ノ日短ク加ルニ他事ノ頗ル繁劇ニ係  
 ニ瞬間ノ際ヲ得テ西氏ニ接シ其梗概ヲ見聞セシノミシテ  
 固ヨリ詳細ヲ盡ス能ハサレモ亦以テ國產振作ノ一端ニ  
 於テ小裨 益ナシト云フ可ラス

東京

第一國立銀行

在上海ノ外國及清國各銀行ノ体裁緊要  
上海ニ於テ開店ニ在ル外國銀行ノ中高業盛大ニシテ信  
用尤モ著明ナルモノハ左ノ二行ナリ

英國 滙豐銀行 オリエンタルバンク

同 滙豐銀行 ホンコンアランドシヤンハイバンク

又上ノ二行ニ亞テ人ノ信用スル所ノ者ハ左ノ二行ナリ

英國 阿喇銀行 アキラバンク

佛國 法蘭西銀行 コムフトマルデエキソニフテデ

又英國 麥加利銀行 チャルトルトバンク ハ方今不信用ニ屬シ経

業減縮シテ生理甚タ索察タリト云フ

右各銀行ヨリ清國開港場ヲ限リ發行スル所ノ預リ手

形ハ 手形面ニ預ケ人ノ姓名書ラセシ 百テール 五拾テール 拾テール

五テール 壹テール (此種ハ近年始テ發行スル者) 等ノ種類アリ

大正十一年四月  
隈侯爵郵寄贈



テ此手形ハ何時ヲ論セス現銀ト交換シ恰モ普通ノ紙幣ト一般タリ而シテ香港ノ店ニ於テ上海同店發行手形ヲ現銀ニ交換スルハ殊別ノ相場ヲ以テ香港通用ノ洋銀ヲ與フ蓋香港ハテール現物ノ取引ヲ為サルニ因テ通

リト云フ  
右五店銀行ノ中麗如匯豐等ノ二店ノ手形ハ衆人能ク之ヲ信用シ而シテ盛ニ流通セリ

右各店兌換上ノマニ於テ橫濱オリンタルバシク若香港上海海バシク等ノ洋銀手形ヲ以テ上海通用ノメキニ洋銀ニ交換スルハ其百弗ニ對シ九拾五弗乃至九拾八弗半ノ率ヲ以テ之ヲ交換ス如此高低アルハ蓋橫濱通用ノ天秤ドルヲルニシテ上海ニ在ツテハ其天秤ドルノ高下ト全港ト橫濱間ノ差引上ノ準度トヲ比較シテ其相場ヲ設クルカ

為メニシテ且橫濱ノ手形ハ上海ニ於テ賣換スヘカラサル者之ヲ請托セラル、因リ交換スルヲ以テ自ラ打銀ノ度ノ昂價ニ至ルト云フ

上海ニ於テ開店シ在ル支那人ノ銀行ハ(ニアン)緊子獨業又ハ二三家ノ合資スル所ニシテ我邦ノ兌換鋪ナルモノ、如シ而シテ其數三七八店ノ多キニ居ル以中經業昌盛ナル者ハ

五康 壽康 升吉 以上三号ハ資本金拾四万テール

延生 德泰 華和 純泰 肇泰 茂泰

慎泰 安滋 頤德 豐源 晉源 元和

惠吉 仁元 升康 以上十号ハ資本金四万五万テール

此他資本金累ホ貳三万テールノモノ貳拾店餘アリト云フ右記號ノ各店ハ其僅カナル資本ヲ以テ皆能ク貳三百万

テールヨリ五百万テールノ巨額ニ迄テ高業ヲ營ミ甚タ人

信用ヲ享ルニ至テハ更ニ千万余ドルノ預リ金ヲ為シテ  
 千万ドルニ至ル貸出金ヲナス者アリ其當座預リ銀ノ如  
 キハ銀ヲ毎日ノ日歩相場ヲ以テ之ヲ利付ニ預リ(預金日受  
 取日ハ毎利足ナリ)預金主ノ望ミニ任セテ何時ヲ論セス之ヲ還付  
 ス又其利付定期預リノ如キハ殊ニ結約ヲ為シテ之ヲ  
 預リ若シ其期限内ニ於テ還收ヲ望ムモノアレハ更ニ貸金  
 ノ利息ニ照ラシ自他及義ニ出テ之ヲ還付シ而シテ其利  
 息ハ日歩相場ノ三四倍或ハ期限ノ長短ニ隨ヒ時ニ臨ミ  
 テ其約ヲ修メ増テ一定ノ則例ヲキカ知シト云フ

上海ニ於テ諸物品賣買ノ代銀ハ(日用ノ物品ヲ除ク外)  
 總テ支那銀行ノ預リ手形ヲ以テ之ヲ交與ス而シテ  
 此手形ハ即日渡シ或ハ五日渡シ十日渡シ(十日以上ノ手形ハ  
 發行スルヲ許サス)ノ各種アル証書ニシテ若シ其日限前

現銀ヲ要スル者アレハ該銀行ハ其日ノ日歩相場ニ貳割  
 ヲ三割ニ至ル出引ヲナシテ苟モ交付ヲ拒ムハカラサル規  
 則ヲ執ル仍テ港市一般ニ公通スルハ恰モ紙幣ノ如シ  
 銀行社會ト唱フル者凡ソ三拾店アリ此社會ハ曾テ銀融  
 通ノ機軸ヲ香港上海ノバンクニ請托シ以テ諸方ノ預ケ  
 金ヲ此一會ニ擔負シ而シテ什麼的ノ難事ナルモ其  
 銀主ニ於テ毫ニ損耗ヲ被ランヌ其一社會ヨリ之ヲ清  
 償スヘキ規則ヲ定有シ依テ更ニ諸人ノ信用ヲ享クト  
 云フ

一  
夏  
原

第一  
國  
金  
行



大正十一年四月  
大隈侯爵郵寄贈

清國標金收銀及銅錢等通用法ノ概要

清國ニテハ板前鑛山ノ開採ヲ業<sup>禁</sup>止スルヲ以テ諸鑛物ノ生産ハ甚クサシ  
就中金鑛ハ其採ヲ嚴禁スルヲ以テ金塊ハ極メテ稀ナリ往昔  
蒙古地方ヨリ之ヲ出シ北京ニ送リテ改鑄セシ後各所ニ融通セシ  
由ナレバ近來其地方ニ同シク之ヲ廢停セリト故ヲ以テ金塊ハ僅ニ  
自國ニ在來スルモノヲ以テ器物又ハ玩具ニ充ツル者ノ時トシテ  
賣買スルノミナリト云フ

金塊ハ之ヲ標金ト唱フ清國北方ヨリ上海ニ來ル一ヶ月間ニ拾換  
内外ナリ而シテ其名稱ハ

天鎰      天豐      天吉

ノ各種アリ(案スルニ我旧政府ノ時ニアリシハ重量ノ如キモノ各其役々  
所ノ名稱ナラン)而シテ其重量ハ概テ九テールセノスニアルモノ  
ナリ(量目ノテールニテ)其價格ハ時價ニヨルト云々多クハ上海テールニテ

東京

第一國銀行



百七十四五テールニ居ルニ付通常ノ高估ハ其高價ナルヲ以テ之ヲ  
賣買スルモノ稀ナリ只多ク内地ニ散リテ富家ノ貯蔵品トナルト云フ  
枚銀即サイセイハ其品類各様ナリ爰ニ其概畧ヲ掲クルハ

舊元宝銀

山東省ニ鑄造スル由

量目凡五拾テール條

方寶銀

日

量目

小元宝銀

日

量目

京餉銀

北京ニテ鑄造スル由

量目

元宝銀

上海ニテ鑄造スル由

量目五拾テール内外

既中元宝銀其品類頗ル多シ現ニ上海ニ於テ通用スルテール銀ノ  
実物ハ皆此元宝銀多ク而シテ旧元宝銀之ニ異リ方宝銀小元寶銀  
京餉銀ノ如クハ其名アルノミニテ目下実物ノ流通ハ極メテ稀ナリ  
ト云フ

元宝銀ハ公估局ノ檢印ニヨリテ始メテ通用規銀ノ

公價ヲ評定セラル、モノナリ其法始メ銀塊所持人ハ其塊  
ノ量目ヲ五百目(清國量目ニテ)内外ニ作りテ之ヲ公估局ニ持參シ  
檢印ヲ乞フ(塊ノ檢査料銅錢或拾文ナリト云フ)同局ハ即時其銀  
性ヲ試験シ(此試験ハ鉄錘ヲ塊中ニ打込ニ又ハ釘ヲ以テ穴ヲ鑿  
テ混合物ノ有無ヲ見ルマデニシテ敢テ真成ノか辨ニテラサル由)定  
則ノ銀性キ混合物多キ内ハ檢印ヲ為サズ定則以上ノ銀性ナハ  
其性ノ優ル割合ニヨリテ増目ヲ記入ス之ヲ申水ト云フ但此申水ハ  
銀塊ノ優性ナルモ五拾テールニ付三テール迄ヲ以テ増目ノ極度トス  
ト而シテ其原量ト増量トヲ合計シタル高ニ九八ヲ乘シテ之ヲ  
通債テールノ公價トス故ニ通債テールノ實物ヲ交收スルニハ百テール  
ト稱スル類ハ紋銀面ノテール量目ハ九拾八テールニシテ其銀性ニヨリテハ  
増量ヲモ加ヘタルモノナルヲ知ルヘシ

右ノ計算ニヨリテ公估局ノ銀性ヲ試験シテ之ニ檢印スル定則ヲ

推案スルニ既ニ概算五拾テールノ量目ヲ有スル銀塊ニ對シ増目ノ極度ハ三テール迄ナレハ即此銀塊ハ純銀タルモノトスルモ此定則ハ銀性千分ノ九百四拾位ヲ以テスルヲ推知スモ若シ又最極度ノ増量ヲ附スルモノ千分ノ九百九拾八位ヲ有スルモノトセハ此定則ハ千分ノ九百三拾八位ヲ以テスルナルヘシ但此計算ハ公估局ノ定則ヲ推算スル迄ニテ若シ此銀塊ヲ交收シテ真成ノ分拆ヲ為スニ於テハ素ヨリ清國ノ試験法殊方ナレハ必ス幾分ノ増減アルヲ免レサルヘシ

上海東洋銀行ニ於テ清國通用テール壹百テールニ有スル銀分ハ千分ノ九百九拾八位ノ割ヲ以テ概算九拾三テールタルヘキヲ告知セラレモ是ニ於テ畧其旨ヲ了得スルニ似タリ何者ハ公估局ニ於テ銀塊ノ性ニ應ヒテ増量ヲ附スルノ定則ハ千分中純銀九百四拾以上ノモノトセハ既ニ其増量ニテ該銀塊ノ品位

ハ尙才定則ニ適應スルモノニシテ而シテ之ニ九八ヲ乘シテ始テ通貨ノテールナルヲ以テ乃チ上海通貨壹百テールノ純銀ハ九拾貳テール壹ヲ有スルニ當ル然レモ公估局試験ノ品量精細ナラサルヨリシテ其實物ヲ分拆シタル平均ハ概テ九拾三テールニ應スルモノナラン

上海通用ノ銅錢ニ三種アリカ錢市錢雙斷錢是ナリ

カ錢ハ貢租ニ納ムル錢種ノ名唱ニシテ銅及真銅ノ者ヲ錯用シ百孔ヲ以テ之ヲ百文ト唱フ市錢ハ市井一率ノ通唱錢ニシテ九拾八孔ヲ以テ之ヲ百文ト唱フ且其内拾孔ハ微細ノ錢種ヲ用ヒ八拾八孔ハ銅及真銅ノ者ヲ用ヒ合セテ其數ニ照シ之ヲ流通ス雙斷錢ハ市中通用ノ唱ニテラス一別唱ニシテ通常ノ銅

真鍮考ノモノヲ錯用シ九拾八孔ヲ以テ之ヲ百文ト唱フ

右ノ唱種ハ寧波ニ於テモ亦之ニ同シク但タ其カ錢ノ外ハ一切九拾八孔ヲ以テ百文ト唱フ又天津北京邊ノ通用ハ所謂微少錢ナルモノ有ルナリ其百孔ヲ以テ百文ト唱ヘ九百文ヲ尙貫文トナシ仮如ハ尙貫五百文ヲ與ヘントスレハ拾四束ヲ以テシテ貫五百文ナレハ貳拾三束ヲ以テスヘキ規準ニシテ但タ貢租ニ納ルノニ此例ニアラスト云

清國政府貸附金旅行日記

清國政府、貸附金を為すに付、明治十年一月廿四日、大蔵卿閣下、命令書ヲ奉リ、奉シ大蔵少書記官岩崎小二郎、第一國主銀行頭取、澁澤榮一、三井物産會社長益田孝、三人ハ上海ニ出張ス。以テ各其旅裝ヲ理シ、一月廿六日、金曜日、十二時、汽車ニテ東京ヲ發シ、直ニ横濱ニ抵リ、高貴樓ニ投ス。

曾テ此事務ニ從事、奔馳シ、陸軍大佐福白、和勝、及内務省ヨリ、佳英人、ヒトマシ、モ、此事ニ関シテ、同行ス。以テ、此日共ニ、横濱ニ赴キ、ヨリ、福原ハ、九年九月ヲ以テ、上海ヨリ、此事務ヲ、携ル、奉シ、大蔵卿閣下、決案ヲ、待チ、居ル。モ、ニシテ、ヒトマシ、ハ、大蔵卿閣下、命令ヲ、以テ、本年一月廿三日、上海ヨリ、歸ル、京セシ、メテ、彼地ノ、近況ヲ、報告シ、モ、ナリ。

大正十一年四月  
大隈侯爵郵寄贈



昨日朝來微雪寒威殊甚其日十時頃雷雨寒風  
 骨徹一行相識其旅行ヲ送ニカ為富貴樓ニ來  
 集シ頗々雜遊者午後三時ニ麥會社ノ汽船西京丸ニ搭  
 シ四時ニ横濱ヲ拔錨ス薄暮ニ至リ風歇ニ駛行穩ニシテ  
 且迅カリ

大倉組社長大倉喜八郎ニ其社業ノ為メ朝鮮ニ赴ク  
 以テ亦同船伴行セリ

一月廿七日(土曜日)ハ晴朝來遠州灘ヲ航シテ船少シク動揺  
 セリ終日起即ノ外一行時々雜話スルニ隨テ記事ナシ

一月廿八日(日曜日)午前十時神戶港ニ投錨ニ一行直ニ  
 上陸シ同港專崎ニ在ルノ家ニ投テ憩息ス午前十時三十分  
 分ノ汽船ニ乗レテ皆大阪ニ抵リ岩崎ハ出納局ノ出張主  
 任伊東武重ヲ訪ヒ銅貨ノ見本ノ一ヲ譲シ及旧銅貨ノ貯  
 銀

有額等ヲ照會シ流澤ハ五代氏ヲ其起業ノ精製  
 監ノ工場ニ訪ヒ該場ヲ一覽ス(工場ハ大阪鐵道駐車場ニ  
 接近ス構造未ク竣功ニ至ラズト雖モ其規模徑畫頗々大  
 ナルナリ)畢テ其中島ノ別業ニ移リテ精製監ノ沿革  
 ヲ一覽シ且其精製監及銅ノ見本ヲ上海ニ送ヒテヲ議  
 ス多ク五代氏ハ其精製監ヲ廣ク滿洲地方ニ販賣セ  
 シトテ企望セシコトヲ既ニ一頁ヲ上海ニ派出シ其事ノ移リ經營  
 シタル以テ見本ノ如クモ其派出スニ送付シテ之ヲ三人ニ達スルキ  
 一ヲ約シ而シテ其沿革ノ便益ヲ亮知セシメテ一ヲ以テ  
 第一ニ彼レラレテ其業ノ便益ヲ亮知セシメテ一ヲ以テ  
 乃々其一本ヲ得五代氏ニ告別シテ高麗橋ハ第一國立  
 銀行ノ本店ニ移リテ岩崎ト相會ス益由不其支店及三井  
 銀行支店亦移リテ末見本ヲ蒐集シ且自家ノ事務ヲ

辦理の午後四時三人は北野新地に見某樓に會合時福  
 原之其振當より辯に來會し且大阪の諸友は旅行  
 夕又ハモトモ東會に款談深刻にシテ四人は福反に告別シ  
 午後七時半ノ汽車ヲ以テ神戸ニ歸リ十一時再ニ本船  
 接シテ十二時、因港ヲ拔錨セリ

一月廿九日(月曜日)晴朝東風軟にシテ水波恬靜ナ  
 リ氣候モ東京に比シ稍暖和ナリ覺テ終日多山嶼幕布  
 ノ間ヲ過キ山色水景觀瞻俯仰ニ随テ其趣ヲ改メ觀  
 心目ノ爽豁タリ覺テ其夜十二時下ノ関ニ抵テ少間碇  
 泊ス滿澤 釜田福原ハ直ニ小船ヲ以テ上陸シ要務ヲ辦  
 シテ本船ニ歸ル(此時間里之時)午前一時下ノ関拔錨  
 大倉船ハ即ハ此地ニ在リテ朝鮮行ノ便船ヲ待ツニ因テ  
 午後二時ヲ分ツ

一月三十日(火曜日)曇朝玄海灘ヲ航ス西風稍強クシテ船  
 少シク動揺ス午後八時長崎港ニ達ス一行直ニ上陸シテ上  
 野屋ニ投宿ス三井物産會社支店ノ社員及此地ニ見立誠  
 會社ノ社員等來會ス

一月三十一日(水曜日)晴氣候神戸ニ較スモ尚暖和ヲ加フ然  
 来々相奔ト走シテ其事務ヲ辦理ス本船ハ此港ヲ去  
 シテ上海ニ赴クヤ即ハ夜十二時ヲ以テ先ニ付一行ハ十二時、本地  
 ノ各員ニ告別シテ又本船ニ接ス十二時因港ヲ解纜ス

二月一日(木曜日)晴風微にシテ船行順ナリ  
 二月二日(金曜日)曇風晴日如シ氣候稍寒シ午後三  
 時頃より海水漸ク淡黄ヲ見ル事揚子江ノ餘濁也ハ  
 シ夜ニ至リ船揚子江ニ入ルヲ以テ殊ニ穩タリ

三月三日(土曜日)曇午前七時上海ニ達ス領事館ノ属

及相識、外國人等来テ安着リ祝ス一行ハ直ニ上陸  
 之テ先ツ領事館ニ至リ品川總領事ヲ接見公文ヲ交  
 附シ且大蔵卿閣下ノ傳有リ之ニテ本案ノ近況ヲ諮問  
 ス該傳畢リテ此地安着ノ電報ヲ大蔵卿ノ達ニ下  
 總領事ニ托シテ岩崎(滿澤)益田、三人ハ廣業洋  
 行ノ支店ニ投宿ス支店ハ佛國人民ノ居留地内ニ在リ福  
 原ハ當テ此地ニ僑居ス所ノ家ニ歸リヒトシ其友人  
 アリ子氏ノ家ニ抵ル

午後三時品川總領事ノ廣業洋行ニ来見ス本案ニ  
 係リテ彼許道其他ノ事ト面談ス之ノ順序ヲ議ス品  
 川ノ言ハリテ彼既ニ三人ノ来着ヲ探知シ且其面接ヲ  
 急促ス情意ヲ了知シ之ハ今明日旅寓ニ於テ接見  
 之此案件ノ談判ヲ始ム一キリヲ決シ品川ニ托シテ其

趣あり彼レニ通セシム

二月四日(日曜日)曇天為暮より雨氣候甚ク惡シ間道上  
 海ノ寒々眩々也、夏天下ノ瀟灑者ニシテ冬日凜冽キト而  
 シテ本年如キ寒々感例ニ比シテ稍輕シト陸氏之ヲ我カ東  
 京ニ較レハ更ニ勝レリ午後二時英人コレヲシテ清國人何福ニ陪  
 来見スヒトマシモ共ニ来ん始テ清國政府貸附金ノ談判ヲ  
 開ク事マシマシハ英國リイデウニス商人會ノ上海ニ支店  
 事務ヲ管理スモノニシテ此貸附金ノ下ヲ擔任ス清國人  
 江種道台候補許有知ノ囑托ニテ予テ豫メ清國政府ノ代  
 理人トナル人ナリ又何福ニ陪(清國)ノ高家商ニテ予テ屬官  
 事ヲ辦理スリテ且許氏ノ知人ナルヲ以テ此案件ニ関  
 與ス人ナリ

西人ハ先ツ我レニ先ルニ許有知今ニ蘆州ニ在リテ近日海濱



セリト然るレテ以案件ニ於テハ西人之リ預リ議スル得んト  
 依テ数項ヲ決議シ我リ交附スル物品ノ見平ヲ示スル此後  
 金運濟ノ時ニ交收スル銀塊ノ純位精量ノ定メ難キ  
 ヲ以テ他事ヲ熟議スル得せん其調査ヲ遂ルテ  
 約シテ云ん

二月五日(月曜日)是日清國銀塊ノ純量ト其通流トヲ  
 調査シ及海關証券ヲ一見ス為メ午前十時ニ至人ハヒ  
 ツトマシテ伴テ東洋銀行ニ據ル其支那人ハリツテ見ル  
 横濱同行ノ支那人口ニハツルニ此地滞在中者ヲ以テ東  
 見ス清國政府ノ普及行ハ海關証券ヲ一見スル此証  
 票ハ光緒元年三月ヲ以テ東洋銀行ヲ清國政府  
 海關ヲハルル百多兩ヲ貸附セシ據者トシテ交收シ  
 真物ナリ其海關ハ上海廣東寧波ノ三様ナリ然

レ氏俸裁放ヲ異ナシテ只証券面ノ文字印ニ異ナリ  
 ノ一見シ畢リテ至人ハ議フテ之ヲ購テ之時ニ口ニト  
 ハ三人ノ先ニ此後現金ニ関スル要件ヲ以テス三人之ヲ領ス又  
 ハリ同ノ銀塊ノ純量純位等ヲ以テスレ氏其精細ヲ高  
 知ル能ハルヲ以テ辭シテ旅寓ニ歸ル  
 午後三時マシテヒツマンヲ伴ヒ銀塊ノ純量未ダ詳ニ  
 求メテあるヲ以テ他ノ議案ヲ示ス能ハス且昨日我リ要  
 求スル数項中ノ首中者シカクナリヤ若ク歸ル  
 午後四時益田又東洋銀行ニ據リ銀塊ノテ審問ス  
 其金庫出納ヲ管理ス清國人ニ知テ之ヲ調査シ大ニ  
 通流ヲ得ルヲ以テ其計算書ヲ携テ歸ル  
 午後五時品川總領事ノ見ニ招商局ニ要ス借銀ノ  
 ニテ清國人未其諾之人ニ面接リ望ムル切ナリ若ク依テ

相議ニテ暫ク其接見ヲ稽延セシテ約シテ去ル  
五代氏ヨリ派出セシ田中五郎平造傳之末見スニテ五代氏ハ其精  
製藍ノ下ニ就テ濠洲ノ痛托ヲシテ以テ濠洲ハ向フ其  
近況ヲ以テス田中ハ清國人旧習ニ拘泥スヲ以テ精製藍  
ノ如キハ未タ俄カニ其效ヲ見カズカニヘシテ其中下品ニ於  
テハ使用ノ多ク相同シキナレバ價格ニ至リテ大ニ庭徑  
己ハ目下之ヲ輸送スモ甚利ヲ見レ能ハサルヲ憂フ  
晚ニ從テ少雨也夕ハ濠洲各商田ハ瑞西人アリ子氏ヲ訪フ  
時ニ田中ヨリ使者ヲ濠洲ニ送りテ曰招商局ノ下ニ付朱  
其詔ニ三人ニ面接ヲ欲ス下切リ依テ先ツ其詔今ム  
ニウリ氏ヲ見ントテ請フト濠洲ハ各々ニ本月八日ヲ以テ  
之ヲ見ルヘキナリ若ク其使者ヲ返ス  
西人ハ旅寓ニ歸リ岩崎トキニ銀愧ノ純位重星ヲ計

算シテ甲乙ニ様ノ精算比較ヲ為ス且明日マシトモ来見ノ  
約アル付銀愧ノ議ニ於テハ即夜調査シテ甲ノ精算下ニ日  
リテ確定スルヲ核判スヘシト決ス  
二月二日(大曜日)兩午前十時半マシトモヒトマシトモ来見  
銀愧ノ精算書ヲ示ス昨夜三人ノ調査スル所ト大同小  
異ナリ只我レノ精算下ニ於テハ上海テレンを百ノ純銀ヲ九折  
目テレン見者トスルマシトモハ九折ニテレン也此レモトス依テ其差  
異ハ概算十分ノ八七ハ他事ノ協議ニ至ルニ及テテ宜シク  
之ヲ定ムヘキナリトシテ他ノ物品價格金額等ノ談判ヲス  
本日ノ談判ヨリテ此等諸金ノ案件其際要ヲ考スヲ以  
テ其約定書ハ英文ヲ以テ本批トス下決ニ而シテ其狀  
師ハ我ニ於テ之ヲ代筆フテ起草セシメ且英文ニ副フニ  
日本文清國文ヲ以テス下約定書ハ昨日我レハ約書調

者、丁之及、フ、キ、多、ク、協、議、ス、但、本、日、判、断、ニ、テ、未、定、ノ、數、  
 項、ハ、彼、ト、於、テ、審、察、ス、テ、更、ニ、多、議、ス、キ、丁、ノ、約、シ、テ、去、ん  
 多、後、五、時、之、人、ハ、何、福、正、後、ノ、招、シ、庭、ニ、テ、其、宅、ニ、於、テ、晚、餐、ス、  
 品、川、總、領、事、福、原、大、佐、ヒ、ト、マ、シ、モ、東、人、會、ニ、許、原、如、ハ、  
 此、夕、口、種、州、ヨ、歸、滬、ス、リ、以、テ、東、テ、共、ニ、會、食、ス、三、人、如、テ、  
 許、氏、ヲ、見、ル、許、氏、於、四、十、許、容、貞、溫、和、風、采、閑、雅、ナ、  
 リ、一、見、其、好、人、物、也、ヲ、知、ん、然、レ、モ、慧、機、能、ク、事、物、ト、應、ス、ル、  
 ノ、才、ヲ、ル、ヲ、見、ス、

晚、餐、畢、リ、テ、許、氏、ハ、三、人、ト、告、ニ、此、貸、附、金、ノ、案、件、ヲ、便、  
 宜、良、法、セ、シ、テ、學、ム、ヲ、以、テ、ス、三、人、ハ、溫、言、之、ニ、答、詞、ヲ、為、シ、  
 夜、十、時、相、分、レ、テ、旅、寓、ニ、歸、ル、  
 此、夕、寒、ク、甚、シ、加、ニ、清、國、人、居、之、室、内、暖、爐、ノ、設、ケ、キ、  
 以、テ、夜、覺、覺、ノ、際、皆、外、套、ヲ、着、テ、寒、威、ヲ、防、ク、ニ、至、ル、

明日、三、時、三、友、會、社、ノ、海、船、日、本、ニ、發、ス、リ、以、テ、旅、寓、ニ、歸、リ、テ、  
 後、各、以、私、ノ、書、信、ヲ、裁、ス、

二月七日(水曜日)是、日、朝、東、ヒ、ト、マ、シ、テ、伴、テ、狀、師、レ、イ、子、ヲ、訪、  
 ヒ、貸、附、金、約、定、書、ノ、一、ヲ、讀、ス、レ、イ、子、ハ、英、人、ニ、レ、テ、久、シ、ク、上、海、ニ、  
 住、シ、狀、師、ヲ、以、テ、業、ト、ス、モ、レ、シ、テ、其、法、律、ト、明、カ、ル、ヲ、以、テ、各、テ、  
 上、海、ニ、著、名、ナ、リ、

レ、イ、子、ノ、言、メ、ヨ、リ、テ、清、國、函、信、ヲ、發、行、ス、海、關、稅、票、ノ、  
 文、義、ヲ、明、釋、シ、其、性、質、ヲ、知、ス、為、メ、澳、國、領、事、報、  
 ノ、書、記、官、ハ、一、ス、氏、ヲ、レ、イ、子、ノ、居、ニ、招、ヒ、テ、其、互、譯、ヲ、為、ス、  
 シ、ム、

レ、イ、子、ト、此、約、款、ノ、條、ヲ、終、日、ニ、テ、精、其、要、否、ヲ、テ、レ、イ、ム、  
 ニ、付、因、氏、ハ、此、約、書、ノ、原、稿、ヲ、法、律、ニ、照、シ、テ、相、當、ノ、字、句、  
 ヲ、捺、書、シ、且、他、ノ、思、見、等、々、ハ、中、案、件、ヲ、記、賬、シ、テ、此、草、案、

八日午後九日ヲ以テ具大務ニシト云フニ於テ三人ハ午後五  
 時ニ同氏ヲ去テ帰途コレヲ以テ借銀ノ事項  
 ヲ議ス同氏ハ清國人ノ因係不斷ナルヲ以テ頗ル難色ヲ  
 リ物シ既明ク待テ之ヲ決着スヘシト云フ午後七時三人ハ  
 旅寓ニ帰ル

二月八日(本曜日)晴午前九時登田ハ米銅ハ及等ノ見  
 本ヲ具大シテマシラシテ且昨日ノ約ヲ踏テ其苦詞ヲ  
 傳ス

午前九時英國人ニテ一乃コレク等旅寓ニ來リ流  
 澤ニ接見セシト云フ其ノ一ハ各ヲ招商局ニ交ス  
 借銀ノ事項ニ付テ之ヲ管理ス清國吏員其諾  
 ト相識ス之ヲ以テ就テ周旋スモコレク三人ノ上海極  
 ルヤ留門ニ依頼シテ流澤ニ面接ヲ求ル一頻ク之ヲ

以テ本日旅寓ニ於テ接見セシト後也且月日ナリ依テ流  
 澤ハ岩崎ト云フ之ヲ近見ス流澤招商局借銀ノ一  
 及テ然レ流澤ハ其裁判ノ規ニ許民ト議ス本安ル  
 始末アリシテ其苦詞ヲ以テ其苦詞ヲ迂回ニシテ一又  
 此案件ニ付テ流澤ノ米其諾ニ面大為セテ一其苦詞流澤  
 ハ多ク忙ヲ以テ之ヲ辭スモ其苦詞乞フテマシラシテ  
 流澤日ヲ以テ之ヲ一居ニ就テ米其諾ヲ見レテ一約ス  
 午後三時マシラシテ車見ニテ借銀ノ案件數項ヲ議定  
 ス之ヲ昨日ノ約ニテ一結果ニ至リ其苦詞ノ概リテ之ヲ  
 但ストル民米其苦詞之カキテ以テ今其苦詞ノ米其苦詞  
 大レ所ヲ若んニテ一其苦詞ノ米其苦詞ノ米其苦詞  
 同アリ且其苦詞ノ米其苦詞ノ米其苦詞ノ米其苦詞  
 一議定ニ能ハサニ付其苦詞ノ米其苦詞ノ米其苦詞

二月九日(金曜日)雨しよしと托せし約定書ハ今日具稿  
 約ありし力午前十一時ヒツトマシ来リテ曰ふ「百ヲ延し明日  
 脱稿スレトラス」予曰ハ他人事見、約モナキ、付岩崎  
 海澤ハ昌川ヲ領事館ニ移シ海澤 吾田ノ此行急  
 遽若程セシ付航海免状ヲ携帶セザルヲ以テ岩崎  
 予之ヲ保証シテ後便ニ送付スルキナリケフ  
 吾田君ハ白川ノ事務ノ為メ、ツリ子ノ居ヲ移シ  
 三友會社ノ漁船名復屋丸来着シ各公私ノ御信  
 ヲ寄来ス且来ん十四日貴船ニテ日本ニ駛行スルキナ  
 リ報ス

二月十日(土曜日)雨一日、約ヲ踐テ午前十一時三人ハ  
 ラーノ居ヲ移シテ清國人朱其詔ヲ見ん朱氏於  
 二十四五為人沉毅動止頗ん才幹あるモノ、如し吾田ノ懐

慨ノ氣節アリテ名ある者ナリ且外國人トノ接對ニ於テ  
 巧ニ先テ以テ甚ク多ク鴻章ノ愛顧ヲ得且注リ其官  
 ヲ進メ現ニ招商局ノ事務ヲ主管シテ大ニ執力アリト云フ  
 朱其詔ハ招商局ノ為メ借銀ヲ要スル切實ニ其我ニ  
 請求スル事項務妥当ナルニ似たり如し此種商品ノ一案  
 至リテ其議ヲ容れテ得る事ナリハ其間ニ介シテ時ニ或  
 ハ我ニ詰問シ又ハ教誡ノ如キ言詞ヲ以テス吾田君ハ海澤  
 氏ヲ銳意以テ之ヲ辯駁ス更ニ詰話數刻ニシテ共ニ午  
 後三時ニ就ク食時ニ至ル迄論ヲ畢テ朱氏ハ明日我旅寓  
 ニ来ルハキク先ク三人モ亦他日朱氏ヲ訪フ事約シテ別ル  
 午後三時シヨシ、ヲ訪フヒツトマシ來會ス約定書ノ未定  
 稿モ一見シ且取ルノ脱稿ヲ約ス  
 是約豫防金ノトニ付テシヨシハ其思考乃チ明解ス三人

之ヲ領欲し去テマシテヲ福ヒ未定ノ數項ヲ決セシテ便ス  
同氏ハ昨日午前十一時ヲ以テ必ス決スルニシテ午後七時旅  
寓ニ歸ル

二月十日(日曜日)朝東京ノ會友より電報アリ曰薩摩  
ノ士族異小輩中ノ官廩ハ之ヲ鎮定セシカ爲メニ現ニ若干ノ  
兵多ク出セリト依テ三人ハ此約款ニ於テ或ハ強甲あるコト  
ヲ思量シ多ク其意見ヲ商榷ニ如シ此約款ハ既ニ成  
ラ先ケレトシテ今依カニ我ヨリ之ヲ拒止スル事あり其辭柄ナ  
クシテ信ヲ外國ニ失スルに至リシ物而シテ薩摩中ノ異小輩中  
ル其底止テ所實ニ臆測ニシテ下野民既ニ官兵ヲ出  
ストモハ亦以テ此事ノ項ヲ妨グル如キ暴徒ノ至ラザルハ今日  
之ヲ信憑スルコト多ク此物則既決ノ案件ナリ遂ニ此約款ヲ  
被整スル三人ノ中務ニシテ敢テ誤謬ナカレト決議シ

テ拒絶ノコトヲ止ム

午前十一時米貝沼ニシテ及リルコト果見ス其後復々招  
商局(銀備)ノ一ト及テ他に到ル所ヲ往スヘカラザルヲ以テ只其  
要緊ヲ試問スルニシテ辭ニ去ル

午後二時ヒットマシテ来リマシテノ言ヲ傳テ曰違約條防  
金ノ一ハ許氏ハ其際其個成ヲ難ニスル付伍ノ切實兩方何  
福隆ノ証書ヲ以テシテ三月後ニ五金ニ引換ハ如何トシ人  
ハ此試問ノ不當ナルヲ辯シテ更ニ相協議ニテ決案ヲヒット  
マシテ先テ之ヲマシテ一傳回セシム

午後五時多田ハマシテヲ福ヒ違約條防金及他ノ物由ノ  
コトヲ質問ス時ニ何福隆来ル會ニシテマシテト談判耐アリ  
且兩氏ノ間ニ多ク其情ヲ考サレ可ク其日ヨリ其福隆頗  
ル錯雜ニシテ一版ヲ一ヤニ至ル迄ニ於テ多田ハ我レノ決案ヲ

何福之修之明系之且明之ヲ法多セシハ我侪ハ其案  
 件ノ協議ヲ休出スヘキトテ若ク何氏ハ今夕許氏ニ稟議  
 して明之之決意多クヘキトテ約してタル至固ニ其旅寓ニ  
 帰ル

二月十二日(月曜日)晴朝来マシシニ書信ヲ以テ石炭ノ價  
 格ヲ報道ス之人ハ其之ニ答出テ裁ス午前十時トトマシ  
 来リテ先テ曰不出ノ價格ハ我レノ多ク出テマシト之ヲ  
 承諾シ少ク出テトセテ協議ニ至リテ為シテ違約賠償金  
 六千彼レヨリシテ出テ出スヘシ但出カテ其兩ハ現金ニアラス  
 何福之陰ノ空期許書ニシテマシトハ其之ヲあるルト任ス  
 ルノ副書ヲ見ルノリト之人ハ之ニ協同ス是ニ於テ約款ノ事  
 項ヲ了スニ付其ニ約定書ノ調印ニ至ルヘキトテ大蔵卿  
 約款ノ談判 調成シ今夕調印ニ至ルヘキトテ大蔵卿

閣下ニ電報ス

午後一時之人ハ其其詔ヲ其家ニ訪フ清國通商辦人ヲ件  
 フ宋氏モ其詔ニ違ハス清國人李鴻標ナシモノヲ便フテ詔  
 詔共ニ便テ増テ之人ハ彼レノ借款ノ案件ニ及シテ「  
 一」ラ介セシムルノ不便ヲ先ク宋氏慚息アリ 款詔數刻ニシ  
 テ別ル  
 夜十二時ニ至リテ始テ約定書ノ名目ヲ暫ク暫クシ信借ノ二箇  
 二カ及關係ノ名目ハ皆々事録ニ合同シテ約定書ノ  
 名目ニ調印ス事ヲ許氏ノ調印ヲ要ス為メ皆許氏ノ  
 旅寓ニ何福之陰ノ家ニ抵リテ之ヲ調印シ其案件ノ  
 良法ヲ贊シ永々相親睦ニテ懐疾ニヘカサルトテ先テ別ル  
 午前十時旅寓ニ帰ル  
 其夜清國曆ノ年末ニ至ルヲ以テ市民ハ多ク徹曉寢ニ就カ

其モノアリ且其晩ヲ賀ス為メ、家ノ煤竹ノ聲ノ喧ニ其  
 以約定書調印ノ一ヲシテ殊ニ深夜ニ至ル之ヲ夕ニテ  
 此ハ實ニ年暮ノ如クテ以テナリ且夫レ清國ノ旧慣ニ  
 新正ヲ祝ス其ノ鄭重ニシテ傭夫工人ノ如キモ亦七八日  
 名クハ半日間ハ其業ニ就カスレテ富家ニ至テハ亦二月  
 間相度ツテ止ルニテ幸徑ノ申方テ度々絶トス  
 二月十三日(水曜日)晴本日ハ清國ノ元旦ニテ以テ市民  
 都テ禮服ヲ着テ相度ツテ街頭為メノ閑散ナリ、  
 量同者ハ状師ノ子一ヲ後テ以テ夜調印セシ約定書者ヲ  
 示シ且其未條ニ於カセシ許有ルヲ持テ全辯辯ノ委  
 任状ノ旨ヲ副ツルニテ一ヲ試問スレテハ其如クナリ  
 若クハ同氏ハ又先ニ海關証票ノ旨ニハ必ス許有ルヲ調  
 印ヲ受テハキリ以テス且曰以約定書ニ加筆トスハ其書哥

アルハ印好ケル一ナレシテ其印肉ノ字面ヲ塗抹セシ如キハ  
 其成ノ約書者ニテ証ニシテ其成ノ力ヲ増スルハト  
 約定書ニ副フヘキ海關証票ノ旨ニハ許有ルヲ調印ヲ  
 要ス一ヲヒツトマシニ托ス然レ且先テ以テ之ヲ果サス  
 明日ニ其及人皆社ノ漁船者ニテ以テ之ニ托ス之ヲ帰  
 東ノ一ヲ決シテ其旅装ヲ埋ス  
 午後七時三人ハ佛國旗亭ニ於テ夜談ヲ信シマシソレ  
 ヒツトマシハリス及ヒテ川總領事ノ福原大佐ヲ招請ス其  
 以約定書成シカニテ此地ヲ其程ニヘキヲ以テナリ  
 此日未甚候ハ福原大佐ノ僑居ニ来リテ借款ノ一若シ  
 協議ニ屬スルハ如何ニ更ニ周旋ヲ托スルヲ先ケ且石  
 炭ノ一ヲ傳テセリト云フ  
 二月十四日(木曜日)晴名道復屋丸ノ此地ヲ其得ルヤ十二時



十九日(土曜日) 味爽より旅装ヲ理テ滞立申ノヲヲ暫ク頓  
 朝東旅寓ニ来リテ送別ヲ有ルニ午前十時旅寓ヲ去  
 レ(高崎) 海澤ハ東洋新刊ニ振リテハ山ノ先ニテ  
 外車館ニ振リテ山ノ先ニテ後車ヲ以テテ相おレテ本  
 船ニ換スニ至ルハマシラシク福物品交付ノ順序ヲ儀ニ十  
 二時中船ニ来ル福物大佐モ長崎) 赴クヲ以テ其ノ本  
 船ニ換ス時ヨリ川徳外車) 及其原) 負福物ニ随フテ  
 上海ニ滞立スル其原) 其他マシラシクハナリテ等皆本  
 船ニ来リテ先宛ス朱其原) 属官ニ多滞橋モ亦来リテ  
 其宛ス

十二時上海ヲ抜錨ニ船中 兩岸ノ奔ルテ見ル晚ニ至テ  
 天陰風動シ

二月十五日(金曜日) 曇雲西風愈動シ船洋中ニ出テ動

接見

二月十五日(土曜日) 晴午前(十時半長崎) 港ニ至ル時  
 天氣晴朗ニシテホシク春暖ヲ催ス船中ノ苦困ニ以テ六實ニ  
 幸甚御) 到リシ想アリ一同喜ニ上陸シテ上野) 迄ニ接見  
 早ク物産會社) 誠人會社) 各々来ル訪シテ各車帰  
 船ヲ祝シ且其陸岸) 是亦其ノ類来テ共ク

此夕品川) 内務大臣) 記者及御) 賞格少) 爲ニ祝) 也) 查六百  
 花ヲ寄テイテ) 本港) 之者) 也) 上野) 迄) 宿次) あり) 此) 一) 層) ハ  
 本日) 九日) 之) 車) 系) 于) 昔) 日) 之) 運) 風) 之) 吹) 吹) 駛) 走) 于) 今) 之) 旅  
 之) 運) 走) 之) 信) 一) 千) 餘) 石) 而) 止) 于) 即) 夜) 亦) あり) 船) 中) 孫) 赴) 于) 于)

二月十七日(日曜日) 晴臨海ヨリ至ルハ物産會社ニ振リテ貨  
 物) 運) 送) 之) 圖) 元) 車) 効) 力) 大) 御) 禮) 也



駛行ヲ多ルル者九河地乃甲兵ヲ派遣スルアリ  
午あすの午間と多ク上陸之時官兵ノ博多ノ為  
スニ臨ミ市街驚乱ヲ加シ軍艦お江東ニテ港内カ  
常ノ大親ヲ為ス午後所拔錨ス

二月廿三日(土曜日)晴午後時神ノ島ニ着ス直ニ上陸シテ  
カヨリ家ノ投ス時陸軍御方ノ地ニ東到リト聞ク  
ヲ以テ暫ク休憩シ之レ以テ陸軍御方其旅館ニ泊ル  
彦中將ニ坐立リテ若クハ九州ノヲ以テセラル  
此地ヲ着ルニ大拍ノ振リ依水街ノ扇面亭ニ投宿ス是ヨリ  
先ニ福原大佐ニ神ノ島ニ合手ス者子ハ陸軍御方隨  
ヒ軍ニ博多ニ赴クト云フ

二月廿四日(日曜日)雨朝来不浪海多風ハ多ク支店ニ  
就テ該事務ヲ必ク且午ハ雲多ク赴カレテ期セシ  
カ此地事務未夕整ハセザテ以テ之ヲ去ルハ皆旅寓ニ帰  
ル

二月廿五日(月曜日)雨朝来不浪地ノ築物ヲ破メテ雲多ク  
赴キ大抵ニ此廣島島ノ神ノ島ニ投錨スヤ幾ト午  
ノ午後三時迄テ更ニ又其行ヲ止  
午後七時大坂ヲ着ルニテ神ノ島ニ着レテ時本船ニ接シ  
テ之ヲ拔錨ス

二月廿六日(火曜日)船中毎記事  
二月廿七日(水曜日)晴午前十時横濱ニ投錨シテ  
富田(橋)ニ到リテ午時頃大坂ニ安宿シテ午後御向  
下ニ電報ニ午後二時汽車ニ乗リテ東京歸リテ  
ニ多ク御方ノ御方ニ候ス者大補御方(國)債局長早倉  
氏ニ会フるニテ此行事務ノ要領ヲ具陳シ且此御方

東  
第一國五頁下

部ノ一ヲ復有<sup>レ</sup>シ<sup>ル</sup>部<sup>ノ</sup>中<sup>ニ</sup>於<sup>テ</sup>ハ、<sup>レ</sup>後<sup>ニ</sup>文<sup>ノ</sup>條<sup>ヲ</sup>考<sup>テ</sup>理<sup>シ</sup>テ<sup>ハ</sup>詳<sup>ニ</sup>明<sup>ニ</sup>  
ニ具<sup>ス</sup>ル<sup>ニ</sup>ハ<sup>キ</sup>一<sup>ヲ</sup>陳<sup>述</sup>シ<sup>テ</sup>有<sup>ル</sup>事<sup>ヲ</sup>其<sup>ノ</sup>家<sup>ニ</sup>帰<sup>ス</sup>ル<sup>ニ</sup>也

[Empty lined area for writing]

[Small vertical mark or character]

[Small vertical mark or character]